

10. 社会医学研究部

部長：森崎 菜穂

【ミッション・目標】

社会医学研究部は、複数の疫学研究手法を用いて、胎児期から幼少期の環境が小児及び成人期の健康に与える影響を調べています。主に、小児期や子育て家庭における各種疾患や社会的困難の原因を追究し、研究から得られた成果から、安心して妊娠・子育てできる環境を社会に提案することを目標としています。

当研究部の構成員は疫学、統計学、社会学、遺伝学、精神保健、栄養学、小児科学、周産期医学、子どもの認知・行動および社会情緒発達等の幅広い専門知識を有しています。このため、全国の大規模な統計情報や医学情報データベース等を活用した研究から、地域レベルでのリクルート・試料採取を行うフィールドワークや記述的な研究まで、多岐にわたる研究手法を用いています。

また、2016年より6NCプロジェクトとしての電子的臨床研究基盤整備事業を運営し、この一環として2022年度からは全国出生コホートコンソーシアムを運用しています。

疫学研究とは、様々なコラボレーションを通して、より質の高いそして代表性の高い研究を遂行していけるものだと、私たちは信じています。

【研究プロジェクト】

[電子的臨床研究基盤整備事業]

1. 6NC連携「健康寿命延伸をめざした疾患横断的予防指針」の作成
2. 6NC運用コホートのプール解析の実施
3. 6NC運用コホートを用いた、幼少期環境の成人期疾患発症リスクに関する影響の分析
4. 全国出生コホートコンソーシアムの立ち上げと運用

[新型コロナウイルス感染症の流行とその影響に関する研究]

1. センター職員における新型コロナウイルス感染症の実態と要因に関する調査
2. 新型コロナ流行下における親子の生活と健康への影響に関する全国調査

[アプリ「ルナルナ」を用いた女性ヘルスケア研究]

1. 社会心理的要因が月経等妊孕性・性行動に与える影響に関するコホート研究
2. コロナワクチンが月経等妊孕性に与える影響に関するコホート研究
3. 小中高生の月経関連研究

[データベース・リンケージ研究]

1. 日本産科婦人科学会（周産期登録、ART登録）と診療情報（DPCデータ）の連結の実施とその分析に関する研究

[成育母子コホート研究]

1. 6歳までのデータのクリーニングおよび集計
2. 9歳児の親子の食事摂取量・食生活・ボディイメージと関連因子に関する前向き研究

[世田谷区における小児肥満研究]

1. 小児生活習慣病予防検診のデータ入力、集計、およびその結果を踏まえた小児生活習慣病予防検診の在り方に関する提案

[既存の大規模データの二次解析研究]

1. エコチルデータを用いた～に関する分析の実施
2. 人口動態統計を用いた～に関する分析の実施
3. 匿名レセプト情報・匿名特定健診等情報データベース（NDB）を用いた小児の抗菌薬の適正使用に関する分析の実施
4. 匿名加工医療情報データ（DPC）を用いた～に関する分析の実施
5. 匿名加工医療情報データ（JMDC、DeSC、MDV）を用いた～に関する分析の実施
6. 様々な自治体で実施された子どもの生活実態調査を用いた子どもの家庭環境の影響の分析

[小児・周産期における医療政策に関連する研究]

1. 匿名加工保険情報データ（JMDC、DeSC データベース）を用いた小児のコモンな疾患の医療負担と医療政策効果を推定する分析
2. 匿名加工保険情報データ（JMDC）を用いた周産期の薬剤疫学の分析
3. 匿名加工入院データ（MDV データベース）や DPC データを用いた小児の医療の質やばらつきに関する分析
4. 匿名加工学校健診データ（SHR データ）を用いた、小児の身体的健康の変化に関する分析
5. 匿名レセプト情報・匿名特定健診等情報データベース（NDB）を用いた小児の抗菌薬の適正使用に関する分析
6. 全国の教育施設における感染対策や医療知識、学校安全に関する分析
7. 教職員の予防接種に関する知識と意向の把握およびそれに関連する因子の分析
8. 人口推計や医療ビッグデータを利用し、20 年後の小児医療の提供体制を予測する microsimulation model の分析

[子育て環境と子どもの健康と発達に関する研究]

1. 乳児がいる家庭の父親と母親のメンタルヘルスに関する研究
2. 母親の幼少期の逆境体験が母親の現在のメンタルヘルスおよび子どものメンタルヘルスに与える影響
3. 父親の育児への関わりの影響および父親の健康状態に関する分析
4. [妊産婦・乳幼児・その家庭の養育環境と支援の必要性・社会的リスクに関する分析]
5. 妊娠・出産期、乳幼児期のリスクアセスメントシートの開発
6. 妊娠・出産期、乳幼児期のリスクアセスメントシートの試験導入・精度検証
7. 母子保健のリスクアセスメントデータを用いた BI ツールの検討

[子どもを産みやすい社会環境に関する研究]

1. 高度不妊治療を始めた女性が感じている悩みや苦しみに関する量的・質的研究
2. 高度不妊治療中の女性の就業継続および QOL の変化に関する量的分析
3. 高度不妊治療中の女性のメンタルヘルスと妊娠達成との関連に関する分析

[子どもの生活実態調査を用いたこどもの貧困に関する研究]

広島県の子どもの生活実態調査を用いた、幼少期の逆境体験に関する分析

[産後ケアに関する研究]

1. 産後ケア利用者の母子の健康、児の予後に関する研究
2. 産後ケア利用者の心理的支援方法に関する研究

[思春期のメンタルヘルスに関する研究]

1. 東京ティーンコホートデータを用いた摂食障害のリスク因子に関する研究

[川崎病に関する研究]

1. 川崎病の治療反応性に関わる臨床および遺伝的情報に関する研究
2. 川崎病に関連する遺伝子解析に関する研究（川崎病遺伝コンソーシアム）
3. 川崎病既往者や家族に対する教育体制の構築に関する研究
4. 成人の川崎病既往者の心理社会的に関する実態調査研究
5. NDB を用いた川崎病に関する疫学研究

[小児血液がんの発生に関する研究]

1. 小児白血病の発症に関わる遺伝素因の探索（日本人対象）
2. 小児白血病の発症に関わる遺伝素因の探索（国際メタ解析）
3. 子どもの血液がんの環境・遺伝的要因に関する疫学研究（日本人対象）
4. 胎児期の母体感染症が小児白血病の発症に及ぼす影響に関する疫学研究（国際プール解析）

[成育医療研究センター病院との共同研究]

1. 両側肺動脈における至適絞扼サイズの決定とその介入効果に関する研究（心臓血管外科との共同研究）
2. 日産婦周産期委員会データベースを用いた各種分析研究（産科との共同研究）
3. 乳幼児の発育の経時推移とその要因に関する分析研究（内分泌科との共同研究）

4. こども QI（臨床指標）の開発・修正・社会実装に関する研究（総合診療部などとの共同研究）
5. 免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤及び評価基盤の構築に関する研究（アレルギーセンターとの共同研究）
6. 小児科外来を受診する心身症患者の予後因子に関する研究（総合診療科との共同研究）
7. 新型コロナウイルス感染症患者の心理社会的予後に関する研究（総合診療科との共同研究）

【研究体制】

部 長：森崎菜穂
 室 長：加藤承彦（行動科学研究室）（～R6 年 9 月）
 室 長：大久保祐輔（臨床疫学・ヘルスサービス研究室）（R4 年 2 月～）
 研究員：田中久子、Aurelie Piedvache、小林しのぶ、石塚一枝、榎並公平、帯包エリカ、糸井しおり（R5 年 10 月～）、青山友子（R6 年 5 月～）
 シニアフェロー：浦山ケビン
 リサーチアシソシエイト：森口ふさ江（～R6 年 3 月）、宮内愛（R6 年 4 月～）佐田文宏（R6 年 4 月～）加藤承彦（R6 年 10 月～）
 共同研究員：小川浩平、鈴木朋、本多由紀子、小林実夏、可知悠子、山本恵美子、原田正平、藤原武男（～R5 年 3 月）、大西香世（～R5 年 3 月）、谷川朋幸（～R5 年 3 月）、伊藤淳（～R6 年 3 月）、市瀬雄一（～R6 年 3 月）、青木康太郎（～R6 年 3 月）、阿部恵理（～R6 年 3 月）、越智真奈美（～R5 年 3 月）、友利久哉、半谷まゆみ、宮山千春（～R6 年 3 月）、澤田なおみ、高畑香織（～R6 年 3 月）、左勝則（～R6 年 3 月）、三瓶舞紀子、岡坂昌子（～R6 年 3 月）、近藤天之（～R6 年 3 月）、Nihal Rahman、木下真里（～R6 年 3 月）、山内里奈（～R6 年 3 月）、藤井伽奈、糸井しおり（R4 年 4 月～R5 年 9 月）、呂天元（～R5 年 3 月）、中田晋也、物井綾香（～R6 年 3 月）、多田由紀（R5 年 4 月～）、ジョップ加南（R5 年 5 月～）、加来美森（R5 年 6 月～）、廣田尚紀（R5 年 7 月～）、野間口剛（R5 年 10 月～）、船富爽子（R5 年 10 月～）、柳川侑子（R5 年 11 月～）、内藤真紀子（R5 年 11 月～）、Abir Nagata（R6 年 1 月～）、竹中沙織（R6 年 1 月～）、福田芽森（R6 年 3 月～）、山口有紗（R6 年 4 月～）、吉川裕貴（R6 年 4 月～）、佐藤聡美（R6 年 4 月～）、宮入烈（R6 年 12 月～）
 研究補助員：明田美和子、金田文香（～R6 年 3 月）、保田桂、小林早苗（～R6 年 3 月）、三浦智子、三好しのぶ、下田茉莉子（R5 年 8 月～）、寺島智美（R5 年 8 月～）、本庄梨紗（R5 年 12 月～）、西野友子（R6 年 1 月～）、猪瀬真由美（R6 年 8 月～）、小泉円（R6 年 6 月～）
 事務補助員：猪瀬真由美（R5 年 2 月～R6 年 7 月）、小泉円（R5 年 6 月～R6 年 5 月）

【国際共同研究】

1. University of Oxford (Prof Cathy Creswell 他): 新型コロナウイルスの流行がこどもの生活環境および精神面に与えている影響に関する前向き研究の国際比較研究
2. University of California, San Francisco: 日米で出生コホートをを用いた小児肥満に関する比較研究
3. Global Burden of Diseases Collaborative (GBDs): 幼少期曝露の成人期の健康に与える影響に関する研究
4. Childhood Leukemia International Consortium (CLIC): 世界の 15 の小児白血病疫学研究グループとの共同研究: 小児白血病の環境・遺伝的要因に関するプール解析やメタ解析
5. International Childhood Cancer Cohort Consortium (I4C): 世界の 10 の大規模母子コホート（日本のエコチル調査を含む）との共同研究: 小児がんの環境要因に関するプール解析
6. カリフォルニア大学サンディエゴ校: 冠動脈病変合併川崎病患者に対するアトロバスタチンの安全性と薬物動態を検討する多施設共同第 I/IIa 相試験
7. Denmark National Birth Cohort Study、国立がんセンター及び日本の出生コホートとの共同研究: 妊娠中の食事が出生児の体格に与える影響に関する研究
8. Norwegian Mother, Father and Child Cohort Study, Denmark National Birth Cohort Study と日本の出生コホートとの共同研究: 妊娠中の葉酸摂取と小児がん発症との関連に関する研究

9. Liggins Institute, University of Auckland (Dr Jacquie Bay 他): NZ で出産した日本人女性の妊娠中および産後の健康行動に関する質的研究

【国内共同研究】

1. Japan Birth Cohort Consortium (JBiCC): 国内 8 つの出生コホートとの共同研究 (環境・遺伝的要因に関するプール解析やメタ解析) (AMED)
2. 国立がんセンター (澤田典絵 他): NCC 所有コホート (JPHC-NEXT) を用いた、幼少期曝露の成人期予後に与える影響に関する研究 (JH)
3. 東北メディカルメガバンク (小原拓 他): 東北メディカルメガバンク地域コホートを用いた、幼少期曝露の成人期予後に与える影響に関する研究 (AMED)
4. 東京医科歯科大学 (山岡結衣助教): 新型コロナ流行期における子どもの生活習慣と親子関係の変化に関する全国調査の実施と国際比較研究 (JST-SICORP, UKRI-JST)
5. 東京医科歯科大学 (三瓶舞紀子助教): 新型コロナ流行期における子どもの生活習慣と親子関係の変化に関する全国調査の実施と国際比較研究 (JST-SICORP, UKRI-JST)
6. 大妻栄養女子大学 (小林美夏教授): 成育母子コホートにおける妊婦とこどもの栄養摂取状況に関する調査の実施
7. 株式会社 MTI: 女性ヘルスケア・ビッグデータ解析研究: 株式会社エムティーアイの月経日や基礎体温、性交日を記録するアプリ「ルナルナ」ビッグデータを用いた、同社と不妊診療科、小児内分泌科、母性内科 (女性内科) との共同研究 (AMED)
8. 九州大学 (諸隈誠一教授): エコチル調査を用いた疫学研究 (複数)
9. 千葉大学大学院公衆衛生学分野 (尾内善広 教授): 川崎病の治療反応性・重症化に関連する遺伝素因の探索とそれに臨床的所見を加えた治療反応性予測モデルの開発 (基盤 C)
10. 慶應義塾大学こどもの機会均等研究センター (赤林英夫教授): 子どもの健康と発達に関する研究 (科研費基盤 S)
11. 東京都立大学子ども・若者貧困研究センター (阿部彩教授): 子どもの貧困の影響に関する研究 (学術変革領域研究 (A))
12. 国立成育医療研究センター政策科学研究部 (竹原健二部長): 父親の育児参加に関する研究
13. 山梨大学 (山縣然太郎教授): 甲州 (旧塩山) プロジェクト (母子保健縦断研究) から、地域のニーズに応える疫学研究対人保健サービスに対する評価法に関する研究への協力
14. 浜松医科大学 (宮入烈教授): 地域における感染症対策に係るネットワークの標準モデルを検証・推進するための研究 (厚労科研)
15. 浜松医科大学 (土屋賢治教授): 浜松母と子の出生コホート研究 (HBC Study) のデータを用いた研究 (AMED)
16. 東京大学 (康永秀生教授): DPC データを用いた小児の医療の質に関する研究
17. 東京医科歯科大学 (伏見清秀教授・新城大輔准教授): DPC データを用いた思春期の入院治療に関する研究 (基盤 B)
18. 産業医科大学 (楠原浩一教授他)、環境省国立水俣病総合研究センター (山本恵室長他): エコチル調査を用いた疫学研究
19. 産業医科大学 (辻真弓教授他): 環境中のマイクロプラスチックの人体への取り込みに関する研究
20. 国立環境研究所 (大久保ひとみ他): 妊娠中の食事の質の評価方法に関する研究
21. 九州大学 (山脇かおり他): 摂食障害入院患者の食生活に関する研究
22. 九州大学 (山脇かおり他): 自閉症スペクトラムと ADHD 合併が行動・情緒に及ぼす影響に関する研究
23. 東京都総合医学研究所 (西田淳志センター長他): 思春期のやせ願望が将来の精神疾患発症に及ぼす影響に関する研究
24. 国立健康・栄養研究所 (瀧本秀美所長他): 摂津市の妊婦を対象とした栄養・食生活等に関する研究 (こども科研)
25. 株式会社エムティーアイ: アプリを用いた妊娠中の体重増加と生活習慣に関する研究 (こども科研)
26. 大阪母子医療センター (川口晴菜他): 妊娠中の生活習慣と体重・体組成に関する研究 (こども科研)

27. 日本体育大学（城所哲宏准教授）：低出生体重児における身体活動の保護効果に関する研究（基盤 C）
28. 琉球大学（喜屋武享准教授）：出生時からの非感染性疾患リスクの緩衝につながる学童期・思春期の身体・環境・心理社会的要因に関する研究
29. 東京家政大（今井夏子特任講師）：小学校の休み時間における怪我に関する調査（日本スポーツ振興センター研究助成）
30. NTT コミュニケーション株式会社：秘密分散・秘密計算技術を用いた医療・保健データの社会実装（内閣府戦略的イノベーション事業）
31. 東北大学（藤原直哉准教授）：人流データを用いた小児の医療アクセスと危機管理（JST さきがけ）
32. 株式会社 CoDMoN：保育施設における感染対策や職員の予防接種の意向の調査（JST さきがけ）
33. 佐久総合医療センター・小児科（坂本昌彦）：学校安全の質向上のための研究（日本スポーツ振興センター研究助成）
34. 東京大学（今村幸太郎特任准教授、西大輔教授）：父親の周産期うつ病予防のためのインターネット認知行動療法（文科研若手）
35. 東京医科歯科大学（藤原武男教授他）、自治医科大学（山名隼人特任講師）：Diagnostic Procedure Combination (DPC) データにおける ICD-10 診断コードを用いた小児虐待研究
36. 東京大学（櫻谷あすか特任講師他）：妊娠・出産を迎える家族の支援プログラム（ファミリー・クラブティンク）開発
37. 母子保健推進会議（佐藤拓代他）発達障害や知的障害、精神疾患、外国人等、配慮・支援の必要な妊産婦への支援を推進するための研究（子ども家庭科学研究）

【研究の概要】

[電子的臨床研究基盤整備事業]

- ・ 成育母子コホートのデータマネジメント業務を行い、0-10 歳までの収集データのクリーニングと整理を行い、院内外各研究者が利用できるように整備を行なっている
- ・ 6 ナショナルセンターで 2020 年に発行した「健康寿命延伸をめざした疾患横断的予防指針」の概要版を作成中
- ・ 6 ナショナルセンターで運用しているコホートのデータ共有基盤を用いたプール解析を複数実施（Abe S, Scientific Reports 2023 他）
- ・ 他ナショナルセンターで運用しているコホートのデータを解析し、出生体重と生活習慣病発症リスクの関係を報告した（Morisaki N, J Epidemiology 2024）
- ・ 全国出生コホートコンソーシアム(JBiCC)を 2022 年 4 月に立ち上げ（<https://www.ncchd.go.jp/center/activity/jbiccc/>）、国内 9 出生コホートのデータ共有基盤を作成し、実務者会議を設定、運用した。SGA の決定要因に関する人口寄与率に関する論文の論文を発行した。（Ishitsuka K, Nutrients 2024）

[新型コロナウイルス感染症の流行とその影響に関する研究]

- ・ 当センター全職員における新型コロナウイルスの抗体検査の測定と心理社会的状況に関する縦断調査を 2023-2024 年に実施し、メンタルヘルスや抗体検査の推移や要因に関する報告を複数行った（Narita J Psychiatr Res. 2023, Shretha RM Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2023）
- ・ 保護者の心理・社会経済状況により全国から無作為抽出された小 5～高 3 の児童約 3000 名に対して新型コロナ流行下における親子の生活と健康への影響に関する縦断調査を 2023-2024 年と年 1-2 回の調査を継続実施した。（Shimoda Nihon Kosho Eisei Zasshi. 2024, Rahman N Appetite. 2024 他）
- ・ また複数の学会発表を行った。具体的には、2023 年 11 月、第 64 回日本児童青年精神医学会総会にて、「レジリエンスと思春期やせとの関連：全国縦断調査の結果より」という演題にて発表、2024 年 10 月に第 65 回日本児童青年精神医学会総会にて「子どものインターネット使用に関する家庭でのルール設定の効果の検討：全国縦断研究」、2024 年 9 月、第 42 回日本小児心身医学会学術集会（小児心身医学の現在の知・実践へ未来へ）にて「Disordered Eating と家族レジリエンスの関連：全国規模の思春期コホート調査」という演題にて発表を行った。

- 日本学術振興会と UKRI の助成金に基づき、思春期のこどものメンタルヘルスの傾向の日英比較を行った。全国約 600 人の十代のこどもおよびその保護者らによる、コロナ禍を振り返った政策に関する意見を「こどもたちの声」としてまとめ、公表した。(プレスリリース参照)

[アプリ「ルナルナ」を用いた女性ヘルスケア研究]

- 株式会社エムティアイの月経日や基礎体温、性交日を記録するアプリ「ルナルナ」ユーザー約 2 万人の女性を対象に実施したコホート調査 (計 6 回調査) のデータを用いて、メンタルヘルスや労働環境や家庭環境、仕事と家庭のバランスなどどのような社会心理的要因が性交頻度・妊孕性に影響を与えるのかを調べる分析を行い、国内外学会発表や論文投稿を行った。
- 上記アプリ「ルナルナ」ユーザー約 1 万人の女性を対象に新型コロナウイルスワクチン接種が月経周期や妊孕性に与える影響を調べるコホート調査を行った (Hosoya et al, *Obstetrics & Gynecology* 2023; Hosoya et al, *Obstetrics & Gynecology* 2024)。
- 初潮予測アルゴリズムの開発および初潮後の月経関連症状に関する実態把握や効果的な介入を開発する共同研究を、小中学生専用の月経管理アプリ「ルナルナジュニアモード」を 론チした株式会社エムティアイ社と開始した。(プレスリリース参照)

[周産期関連データベース連携事業]

- 総合周産期センターを有する 9 病院における DPC データを収集し、母児連結および個人単位での主要指標の作成を行うプログラムの開発を行った。
- 日本産科婦人科学会周産期登録と DPC データから算出した指標 (薬剤投与量、処置の有無、総医療費) を用いて複数の分析を実施している。
- 日本産科婦人科学会周産期登録と ART オンライン登録のリンケージを、確率的方法を用いて行った。

[成育母子コホート研究]

- 2024 年度からコホート参加者の家族 (本人・父・母) の 11-13 歳時点における食事摂取状況を把握する調査を実施している。
- 事務局による同意撤回の再確認作業の後、解析用固定データから同意撤回者のデータを削除したうえで、6 歳までの血液・検診・質問票等のデータ 41 ファイルを再固定し、新たに 20 ファイルのクリーニングを実施し、解析用データとして提供する作業をした。また、コホートプロファイル論文を執筆中である。
- 妊娠中の食生活パターンにより栄養摂取量が異なること、食事の時に噛む頻度が少ないと体重増加量が過剰になりやすいことを報告した (Abe E. *Womens Health Rep* 2023)

[世田谷区における小児肥満研究]

- 2016 年から毎年、世田谷区における小児生活習慣病予防検診にて収集される問診票と質問票のデータ入力を行い、血液データと結合し、集計している。2018 年度より、世田谷区学校保健委員会/専門委員/生活習慣病予防委員会の協力機関となり、集計結果を世田谷区で年 1 回開催される専門委員会で集計結果を報告している。2016-2021 年の 5 年分について学術論文として投稿予定である。
- 2015~2018 年度に実施した、小児生活習慣病予防検診対象者の父子介入プログラムについて、パイロット研究として一定の効果があつたことを報告した (田中久子, 他 . *日本食育学会誌* 17 巻 3 号 2023)。

[既存の大規模データの二次解析研究]

- 日本産科婦人科学会周産期登録を用いて、妊娠中の最適体重増加量を算出した。(Takeda J, *J Obstet Gynaecol Res.* 2024)
- 人口動態統計を用いて 13 trisomy を持つ児の直接死因を年齢別に報告した (Kato et al, *American J of Medical Genetics: Part A* 2021)
- エコチルデータで産後うつ要因や、父親の育児が児の発達に関する複数の分析を実施した (Kato T *Pediatr Res* 2024, Tanaka RJ *Child Health Care.* 2024)

[小児における抗菌薬適正使用の研究]

- JMDC/DeSC データベースを用いて、小児抗菌薬適正使用支援加算の医療政策効果を推定したところ、この加算は開始 4 年間で 20% の抗菌薬使用減に寄与していることを確認した (Okubo et al. *Clinical Infectious Diseases.* 2024)。

- 入院データベース（DPC データ）を用いて、小児の尿路感染症における抗菌薬の時系列診療パターンを分析したところ、一部の病院が広域抗菌薬を過剰に使用するパターンがあることを明らかにした（Okubo et al. *Pediatric Nephrology*. 2023）。

[小児の臨床疫学に関連する研究]

- 出生コホートを用いて、スクリーンタイムと神経発達床症の関連において、屋外での遊びがこの関連を緩和する因子として同定した（Sugiyama, Tsuchiya, Okubo, et al. *JAMA Pediatrics*. 2023）。
- 既存の RCT のデータを用いて、小児心臓外科手術において、Dexmedetomidine の使用は脳や炎症系バイオマーカーの減少に効果があることをシステマティックレビューとメタ解析で示した（Hashiya, Okubo, Kato. *J Cardiothorac Vasc Anesth*. 2023）。
- 2005 年～2021 年度におけるインフルエンザの発生率と関連する医療資源の利用状況を把握した。2009 のインフルエンザパンデミックでは発生率は約 2 倍増、2020 年の COVID-19 では 99% 減と判明した（Okubo, et al. *Pediatric Infectious Disease Journal*. 2023）。
- 2014 年に定期接種化された水痘ワクチンの医療政策効果を推定し、水痘の発生率の減少に大きく寄与していることが判明した（Uda, Okubo, et al. *Vaccine*. 2023）。
- COVID-19 で入院となった小児の重症化因子を探索したところ、慢性疾患の数が関連していることが判明した（Okubo, et al. *Pediatric Infectious Disease Journal*. 2024）。
- 小児と保護者におけるアレルギー性鼻炎の舌下免疫療法の治療遵守率を 3 年間追跡したところ、約半数は中断していることが判明した。また、10 代が遵守率の低下の危険因子であることも判明した一方で、親子で開始した場合は向上する傾向にあった（Okubo et al. *Allergy* 2024）。
- 小児の RS ウイルス感染症で入院した患者における重症化の危険因子を探索し、乳児と慢性疾患が危険因子であることが判明した。また、5 歳未満の小児において RS ウイルスによる入院費用は年間 110～140 億円要していることがわかった（Okubo, et al. *Pediatric Infectious Disease Journal*. 2024）。
- 小児の COVID-19 の医療資源の利用を確認したところ、2022 年のオミクロン株の出現以降に急増し医療が逼迫していた。一方で、2009 インフルエンザパンデミックと比較して、医療資源利用のピークは低く、小児の医療提供体制が 10 年でかなり脆弱になっていることがわかった（Okubo Y, et al. *Journal of Infection and Chemotherapy*. 2024）。
- 外来診療における検査の医療キャパシティを 2009 インフルエンザパンデミックと COVID-19 パンデミックで比較をしたところ、2009 インフルエンザパンデミックで非協力的であった医療機関は COVID-19 でも同様の傾向にあることが判明した（Okubo Y, et al. *Respiratory Investigation*. 2024）。
- 2005～2021 年における 5 歳未満の RSV 感染症の発生率と医療資源の利用状況を調査したところ、RSV の発生率は 2021 年度が最も高い傾向であった。また、外来における医療資源の利用は年間で 70～90 億円を要しており、入院診療とあわせると 250 億程度を要していることが判明した（Okubo, et al. *Journal of Pediatric Infectious Disease Society*. 2024）。

[教育機関における小児の健康、感染対策、医療知識、予防接種の意向に関する研究]

- 新型コロナウイルス感染症に伴う学校生活の変化が、小児の身体的健康にどのような影響があるかを調査したところ、肥満・やせ・近視と有病率が増加する傾向にあることが判明した（Okubo Y, Ishitsuka K, et al. *Pediatric Obesity*. 2024）。
- コドモン社のネットワークを利用して全国の保育施設における感染対策の状況を調査したところ、2022 年度と比較して、2023 年度に大きく感染対策を緩和する傾向にあることが判明した（Okubo Y, et al. *Journal of Infection and Chemotherapy*. 2024）。
- 匿名加工医療情報データ（DPC）を用いて、思春期の精神医療の現状と課題を分析した。（論文投稿準備中）

[子育て環境と子どもの健康と発達に関する研究]

- コロナ禍以前と以後での乳幼児を持つ父親と母親のメンタルヘルスの状況の変化（*Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology* に投稿中）
- 幼少期の親の離婚を経験した母親は、学歴が低くなりやすく、またその子どももメンタルヘルスの不調を経験しやすいことを示した（*Journal of Affective Disorders* に掲載）
- 父親の育児参加の効果に関する国内の研究の知見をまとめた（公衆衛生雑誌に掲載）

- 父親の乳児期の育児参加と子どもが16歳時点でのメンタルヘルスとの関連（*Journal of Affective Disorders* に掲載）
- JMDC データベースを用いて周産期の親の気分障害と子どもの健康や発達の関連を検討し、報告した（Obikane, et al. *Archives of Women's Mental Health*, 2024）。
- JACSIS データを用いて父親の周産期のパートナー間暴力被害と子どもへの虐待関連行動について分析（投稿中）
- JACSIS データを用いて周産期の父親の支援の必要性に関する分析を実施（投稿準備中）

[妊産婦・乳幼児・その家庭の養育環境と支援の必要性・社会的リスクに関する研]

- 妊娠・出産期、乳幼児期のリスクアセスメントシートを、自治体への半構造化面接をもとに改良し実用化、成育のホームページより情報提供を行っている
- ダミーケースを用いた本ツールの精度検証を実施した（投稿中）
- 母子保健指導者養成研修、統括支援員養成研修で本ツールについて周知
- 現在までに5自治体の母子保健活動において試験導入を実施、精度検証を実施
- 母子保健のリスクアセスメントデータを用いた BI ツールのプロトタイプを開発

[子どもを産みやすい社会環境に関する研究]

- 高度不妊治療を始めた女性の治療に対する思いを分析し、治療のどのような側面が負担になっているのかを分析した（生殖補助医療の治療早期における女性のストレス：混合研究法に掲載、公益社団法人程ヶ谷基金「最優秀賞」受賞）
- 治療初期のメンタルヘルスがその後の妊娠の確率および妊娠期のメンタルヘルスに影響を及ぼすのかどうかに関する分析（投稿準備中）
- 不妊治療によって子どもを出産した母親は、自然妊娠の母親に比べて児童虐待やボンディング障害（子どもを可愛いと思えない）が生じやすいかを検証した（投稿準備中）

[国際出生コホート連携]

- デンマークと日本の共同で妊娠の栄養摂取と出生時アウトカムについて、国立がんセンターの栄養疫学者とともに分析した（投稿中）
- 10万人規模の3つのコホート **Denmark National Birth Cohort, Norwegian Mother, Father and Child Cohort Study** 及びエコチル調査間でサプリメント使用に関する方法論の標準化を検討し、妊娠中の栄養摂取と新生児についての解析を実施中である。
- ヨーロッパ19の国での魚介類と子どもの健康に関するプール研究で実施された方法を用いて、国立水俣病センターをはじめとした環境疫学の研究者とともに、日本の魚介類の環境汚染物質と子どもの健康についての検討をエコチル調査で行い、学会英文誌に論文を発表した。

[思春期のメンタルヘルスに関する研究]

- 東京ティーンコホートのデータを用いて、思春期やせとメンタルヘルスとの関連を東京ティーンコホート研究発表会で報告した。（論文を作成し共著者回覧中）

[川崎病に関する研究]

- 川崎病と遺伝子の関連について、様々なアプローチからの研究推進を可能とするための体制を整備し、全国研究参加施設から収集を進めている（川崎病遺伝コンソーシアム）。
- 川崎病の治療反応性に要因を明らかにするために、対象症例の臨床的情報と遺伝的情報の分析を行っている。
- 川崎病既往者の早期教育的介入を実現するための教育体制を目指している。教育に関する実態調査を実施し、ニーズや課題の同定を行っている。
- NDB と全国調査のデータを用い治療実態等の解析を実施している。
- 成人に達した川崎病既往者に対し、心理社会的困難や QOL に関する調査を実施している。

[小児血液がんの発生に関する研究]

- 東京小児がん研究グループ（TCCSG）および日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）と協力して、ゲノムワイド関連解析により小児白血病の発症リスクや予後に関連する遺伝子多型の同定を行った。（Hangai M *Haematologica*. 2024）

- ・ 国際メタ・ゲノムワイド関連解析により、小児白血病の発症リスクに関連する遺伝子多型の同定を行っている。
- ・ 国内で症例対照研究を実施し、胎児期から幼少期の環境要因や遺伝素因がどのように相互作用して小児血液がんの発症に関与しているかを調べている。
- ・ 国際プール解析により、胎児期の母体感染症が小児白血病の発症に及ぼす影響について調べている。

【令和5年研究業績】

1. 誌上発表

(1). 英文原著

1. Sasaki H, Pak K, Mezawa H, Yamamoto-Hanada K, Ishitsuka K, Konishi M, Nishizato M, Sato M, Saito-Abe M, Yang L, Ohya Y. Health-related quality of life of mothers and developmental characteristics of very low birth weight children at 2.5 years of age: results from the Japan Environment and Children's Study (JECS). *Health Qual Life Outcomes*. 2023;21(1):68.
2. Narita Z, Okubo R, Sasaki Y, Takeda K, Ohmagari N, Yamaguchi K, Morisaki N, Sampei M, Ishitsuka K, Kojima M, Nishimura K, Inoue M, Yamamoto S, Konishi M, Miyo K, Mizoue T. Association of COVID-19-related discrimination with subsequent depression and suicidal ideation in healthcare workers. *J Psychiatr Res*. 2023;159:153-8.
3. Broderick C, Kobayashi S, Suto M, Ito S, Kobayashi T. Intravenous immunoglobulin for the treatment of Kawasaki disease. *Cochrane Database Syst Rev*. 2023;1(1):Cd014884.
4. Iwanaga M, Nishi D, Obikane E, Kawakami N. Age of victimization and moderating role of social support for the relationship between school-age bullying and life satisfaction in middle-age. *Scand J Public Health*. 2023;14034948221148788.
5. Obikane E, Nishi D, Ozaki A, Shinozaki T, Kawakami N, Tabuchi T. Association between Poverty and Refraining from Seeking Medical Care during the COVID-19 Pandemic in Japan: A Prospective Cohort Study. *Int J Environ Res Public Health*. 2023;20(3).
6. Hashiya M, Okubo Y, Kato T. Effects of Dexmedetomidine on Brain and Inflammatory Outcomes In Pediatric Cardiac Surgery: A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. *J Cardiothorac Vasc Anesth*. 2023.
7. Abe SK, Ihira H, Minami T, Imatoh T, Inoue Y, Tsutsumimoto K, Kobayashi N, Kashima R, Konishi M, Doi T, Teramoto M, Kabe I, Lee S, Watanabe M, Dohi S, Sakai Y, Nishita Y, Morisaki N, Tachimori H, Kokubo Y, Yamaji T, Shimada H, Mizoue T, Sawada N, Tsugane S, Iwasaki M, Inoue M. Prevalence of family history of cancer in the NC-CCAPH consortium of Japan. *Sci Rep*. 2023;13(1):3128.
8. Sugiyama M, Tsuchiya KJ, Okubo Y, Rahman MS, Uchiyama S, Harada T, Iwabuchi T, Okumura A, Nakayasu C, Amma Y, Suzuki H, Takahashi N, Kinsella-Kammerer B, Nomura Y, Itoh H, Nishimura T. Outdoor Play as a Mitigating Factor in the Association Between Screen Time for Young Children and Neurodevelopmental Outcomes. *JAMA Pediatr*. 2023;177(3):303-10.
9. Tanaka R, Tsuji M, Shimono M, Morokuma S, Morisaki N, Kusuhaara K, Kawamoto T. Association between maternal socioeconomic status and breastfeeding: Results from the Japan environment and children's study. *J Child Health Care*. 2023;13674935231158842.
10. Natsu Sasaki KI, Daisuke Nishi, Kazuhiro Watanabe, Hiroki Asaoka, Yuki Sekiya, Kanami Tsuno, Yuka Kobayashi, Erika Obikane, Norito Kawakami The effect of internet-based acceptance and commitment therapy (iACT) on psychological well-being among working women with a pre-school child: A randomized controlled trial. *Journal of Contextual Behavioral Science*. 2023;28:33-47.
11. Sankoda A, Arata N, Sato S, Umehara N, Morisaki N, Ito Y, Sago H, Yano Y, Horikawa R. Association of Isolated Hypothyroxinemia and Subclinical Hypothyroidism With Birthweight: A Cohort Study in Japan. *J Endocr Soc*. 2023;7(5):bvad045.
12. Ishitsuka K, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Saito-Abe M, Sasaki H, Nishizato M, Sato M, Ohya Y. Association between pre-pregnancy weight status and dietary patterns during

- pregnancy: results from the Japan Environment and Children's Study. *Public Health Nutr.* 2023;1-8.
13. Abe E KM, Horikawa R, Morisaki N, Tanaka H, Sago H, Ogawa K, Fujiwara T. The Association Between Eating Quickly and Excessive Gestational Weight Gain. *Women's Health Report.* 2023.
 14. Okubo Y, Uda K, Miyairi I. Trends in Influenza and Related Health Resource Use During 2005-2021 Among Children in Japan. *Pediatr Infect Dis J.* 2023.
 15. Uda K, Okubo Y, Miyairi I. Impacts of routine varicella vaccination program and COVID-19 pandemic on varicella and herpes zoster incidence and health resource use among children in Japan. *Vaccine.* 2023.
 16. Okubo Y MN, Uda K, Miyairi I, Kumazawa, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Nationwide epidemiology and clinical practice patterns of pediatric urinary tract infections: application of multivariate time-series clustering. *Pediatr Nephrol.* 2023.
 17. Kato T, Fujii, M., Kanatani, K., Niwa, F., Hirabayashi, K., Nakayama, T., and Itakura, S. Paternal involvement in infant care and developmental milestone outcomes at age 3 years. *Pediatr Res.* 2023.
 18. Inoue K, Seeman TE, Nianogo R, Okubo Y. The effect of poverty on the relationship between household education levels and obesity in U.S. children and adolescents: an observational study. *Lancet Reg Health Am.* 2023;25:100565.
 19. Dhungel B, Kachi Y, Kato T, Ochi M, Nagayoshi M, Gilmour S, Takehara K. Association of paternal factors with mothers' employment postchildbirth. *J Occup Health.* 2023;65(1):e12419.
 20. Ishitsuka K, Tsuji M, Yamamoto M, Tanaka R, Suga R, Kuwamura M, Sakuragi T, Shimono M, Kusuhara K. Association between maternal fish consumption during pregnancy and preterm births: the Japan Environment and Children's Study. *Environ Health Prev Med.* 2023;28:47.
 21. Morisaki N, Obara T, Piedvache A, Kobayashi S, Miyashita C, Nishimura T, Ishikuro M, Sata F, Horikawa R, Mori C, Metoki H, Tsuchiya KJ, Kuriyama S, Kishi R. Association between smoking and hypertension in pregnancy among Japanese women: a meta-analysis of birth cohort studies in the Japan Birth Cohort Consortium (JBiCC) and JECS. *J Epidemiol.* 2023.
 22. Okubo Y, Uda K, Miyairi I. Clinical Practice Patterns, Health Resource Use and Risk Factors for Severe Conditions Among Children Hospitalized With COVID-19 in Japan. *Pediatr Infect Dis J.* 2023;43(1):26-31.
 23. Okubo Y, Kuwabara Y, Sato S, Sakashita M, Yuka H, Morita H. Real-world compliance and determinants for sublingual allergen immunotherapy in children and parents. *Allergy.* 2023.
 24. Dhungel B, Kato T, Gilmour S, Kachi Y, Ochi M, Nagayoshi M, Takehara K. Trajectories of fathers' childcare involvement and child behavioral outcomes. *Pediatr Int.* 2023;65(1):e15682.
 25. Miyayama C, Morisaki N, Ogawa K, Tanaka H, Shoji H, Shimizu T, Sago H, Horikawa R, Urayama KY. Evaluating the association between caesarean delivery and weight status in early childhood in a Japanese birth cohort study. *Sci Rep.* 2023;13(1):19612.
 26. Okubo Y, Uda K, Kaki M, Miyoshi S, Miyairi I. Infection prevention measures and its determinants in childcare facilities during the COVID-19 pandemic: A nationwide survey (2022-2023). *J Infect Chemother.* 2023.
 27. Hosoya S, Piedvache A, Nakamura A, Nasu R, Hine M, Itoi S, Yokomizo R, Umezawa A, Hiraike O, Koga K, Osuga Y, Narumi S, Morisaki N. Prolongation of the Menstrual Cycle After Receipt of the Primary Series and Booster Doses of mRNA Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Vaccination. *Obstet Gynecol.* 2023.
 28. Yoshii K, Morisaki N, Piedvache A, Nakada S, Arima K, Aoyagi K, Nakashima H, Yasuda N, Muraki I, Yamagishi K, Saito I, Kato T, Tanno K, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S, Sawada N. Association between birth weight and prevalence of cardiovascular disease and other lifestyle-related diseases among Japanese population: JPHC-NEXT Study. *J Epidemiol.* 2023.

29. Okubo Y, Uda K, Ogimi C, Shimabukuro R, Ito K. Clinical Practice Patterns and Risk Factors for Severe Conditions in Pediatric Hospitalizations With Respiratory Syncytial Virus in Japan: A Nationwide Analyses (2018-2022). *Pediatr Infect Dis J*. 2023.
30. Ishitsuka K, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Yang L, Saito-Abe M, Nishizato M, Sato M, Miyaji Y, Kumasaka N, Ohya Y, Kamijima M, Yamazaki S, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Iso H, Shima M, Nakamura H, Suganuma N, Kusuhashi K, Katoh T. Teenage and young adult pregnancy and depression: findings from the Japan environment and children's study. *Arch Womens Ment Health*. 2023.
31. Obikane E, Nishi D, Morisaki N, Tabuchi T. Risk factors of paternal perinatal depression during the COVID-19 pandemic in Japan. *J Psychosom Obstet Gynaecol*. 2023;44(1):2245556.
32. Hangai M, Kawaguchi T, Takagi M, Matsuo K, Jeon S, Chiang CWK, Dewan AT, De Smith AJ, Imamura T, Okamoto Y, Saito AM, Deguchi T, Kubo M, Tanaka Y, Ayukawa Y, Hori T, Ohki K, Kiyokawa N, Inukai T, Arakawa Y, Mori M, Hasegawa D, Tomizawa D, Fukushima H, Yuza Y, Noguchi Y, Taneyama Y, Ota S, Goto H, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Nakamura K, Moriwaki K, Sekinaka Y, Morita D, Hirabayashi S, Hosoya Y, Yoshimoto Y, Yoshihara H, Ozawa M, Kobayashi S, Morisaki N, Gyeltshen T, Takahashi O, Okada Y, Matsuda M, Tanaka T, Inazawa J, Takita J, Ishida Y, Ohara A, Metayer C, Wiemels JL, Ma X, Mizutani S, Koh K, Momozawa Y, Horibe K, Matsuda F, Kato M, Manabe A, Urayama KY. Genome-wide assessment of genetic risk loci for childhood acute lymphoblastic leukemia in Japanese patients. *Haematologica*. 2023.

(2). 英文総説・著書

該当なし

(3). 和文論文・著書・総説

[和文論文]

1. 大野佳子、三瓶舞紀子、長谷川文香、松隈誠矢、半谷まゆみ、森崎菜穂. COVID-19 対策下における保護者の心理・社会経済状況によるこどもの意見の特徴：Web 調査による自由記述のテキスト分析. *日本公衆衛生雑誌*. 70 巻 2 号 135-148, 2023
2. 田中久子、澤田樹美、高橋美恵子、浦山ケビン、原田正平、森崎菜穂. 肥満児に対する父親に重点を置いた家族介入プログラムの検証(パイロット研究). *日本食育学会誌*. 17 巻 3 号 119-131, 2023
3. 森崎菜穂. 妊娠糖尿病妊婦の体重管理. *糖尿病と妊娠*. 23 巻 2 号 S-18-S-21, 2023.
4. 高畑香織、加藤承彦、三瓶舞紀子、齊藤和毅、森崎菜穂、浦山ケビン. 生殖補助医療の治療早期における女性のストレス：混合研究法. *日本受精着床学会*. 40 巻 2 号 232-245, 2023.
5. 近藤天之、加藤承彦、石塚一枝、阿部彩. 生活実態調査を用いた小・中学生の抑うつに関する分析 ―学校生活と子どもの抑うつとの関連に注目して. *厚生の指標*. 70 巻 13 号, 33-40, 2023

[著書]

1. 森崎菜穂. DOHaD 研究. 疫学の事典. 朝倉書店. 2023;1; 216.
2. 森崎菜穂. 母子保健概論. 母子保健マニュアル 第 8 版. 南山堂. 2023; 1; 18.
3. 石塚一枝. 若年女性の健康課題. 母子保健マニュアル 第 8 版. 南山堂. 2023; 1; 17.
4. 半谷まゆみ. 母子保健統計. 母子保健マニュアル 第 8 版. 南山堂. 2023; 1; 19-28.
5. 小林しのぶ. リラクセーションがもたらす癒し. 痛みの心理学. 誠信書房. 2023.
6. 森崎菜穂. 第 10 章 社会小児科学. 小児科学 第 11 版. 文光堂. 2023.

[総説]

1. 森崎菜穂. 「マスク着用の『個人の判断』ができる人とできない人」. 週刊日本医事新報. No.5158 (2023 年 03 月 04 日発行) P.58
2. 森崎菜穂. コロナ禍の子どもたち. 教職研修. 2023 年 4 月号
3. 田中久子、森崎菜穂. 小児の肥満予防における健康的な食事の役割. *アグリバイオ*. 7 巻 4 号, 315-319, 2023

4. 森崎菜穂, 「いつ頃までにどれくらい増やせばいいのか」が分かる——日本人のデータを用いて作成した妊娠中の体重増加曲線, 助産雑誌, 77 巻 3 号 228-235, 2023
5. 石塚一枝, 成育期の栄養と食生活, 医学のあゆみ, 284 巻 1 号 87-89, 2023
6. 石塚一枝, 小児心身の広場「小児心身症の予防に向けて～社会医学の視点から～」, 子どもの心とからだ 日本小児心身医学会雑誌, 32 巻 1 号 88-89, 2023.
7. 山本依志子、森崎菜穂, 数値から見る周産期医療：周産期医療の指標, 周産期医学, 53 巻 8 号 1143-1149, 2023
8. 小林しのぶ, 川崎病患者・家族への退院支援と患者教育, 小児看護, 46 巻 8 号, 972-979, 2023
9. 森崎菜穂, DOHAD 仮説—妊娠中の適切な体重増加とは, 日本医学会雑誌, 152 巻 6 号 p.636, 2023
10. 森崎菜穂, マスク着用、子どもの判断尊重を～自主性育み成長にプラス～, 時事メディカル, 2023.10.30
11. 糸井しおり, 森崎菜穂, 国際比較から見た本邦における周産期医療の現状と課題, 小児内科, 55 巻 13 号 1699-1703, 2023
12. 石塚一枝, コロナ禍が及ぼした健康被害からの回復, 機関誌「中学校」, No.843 令和 5 年 12 月号

2. 学会発表

(1). 国際学会講演・シンポジウム・招待講演
該当なし

(2). 国際学会一般演題発表

1. 石塚一枝, Determinants of help-seeking behaviors for depression among Japanese adolescents during the COVID-19 pandemic. Society for Adolescent Health Meeting. Chicago. 2023.3.7. ポスター
2. 糸井しおり, Association between Body Mass Index and Menstrual Cycle: Analysis Using Big Data Retrieved from a Smart Health App. The Society for Pediatric and Perinatal Epidemiologic Research (SPER). Oregon. 2023.6.11. ポスター
3. 柳川侑子, Effect of changes in Gestational Age (GA) limits in abortion law on pregnancies: national study in Japan. The Society for Pediatric and Perinatal Epidemiologic Research (SPER). Oregon. 2023.6.12 ポスター
4. Piedvache Aurelie, Age and ethnic variations in the association between maternal infection and childhood leukemia risk: results from an international meta-analysis of individual participant data. The Society for Pediatric and Perinatal Epidemiologic Research (SPER). Portland. Oregon. US. 2023.6.12. ポスター

(3). 国内学会講演・シンポジウム・招待講演・教育講演・特別講演

[招待講演]

1. 帯包エリカ, 母子保健施策を推進する（福祉と連携）ための研修：母子保健活動における支援が必要な家庭を把握し共有するためのリスクアセスメント, 令和 5 年度こども家庭庁母子保健指導者養成研修, オンライン, 2023.10.2～2023.12.1

[シンポジウム・教育講演・特別講演]

1. 大久保祐輔, (シンポジウム) 医療ビッグデータを活用する, 第 126 回日本小児科学会学術集会, 東京, 2023.4.16.
2. 石塚一枝, (教育講演) コロナ禍における子どもの心身の健康, 第 6 回日本養護実践学会学術集会, 名古屋, 2023.7.8.
3. 大久保祐輔, (シンポジウム) SNS で小児科医療者ができること, 第 36 回小児救急医学会, 東京, 2023.7.23
4. 石塚一枝, 市民講座「SNS と成長」, 小児医学財団市民公開講座, オンライン, 2023.9.1.
5. 帯包エリカ, (自治体研修) 母子保健のリスクアセスメントシート, 母子保健事業研修会, 札幌, 2023.9.8.
6. 森崎菜穂, (シンポジウム) 成育こどもシンクタンクについて, 日本学術会議 シンポジウム, オンライン, 2023.9.16.

7. 森崎菜穂. (シンポジウム) SGA の長期予後. Pfizer Endocrinology Forum 2023. 東京. 2023.9.16.
8. 石塚一枝. (講演) コロナ禍のこどもの健康. 新宿区立小学校教育研究会. 2023.09.20
9. 石塚一枝. (講演) 「新型コロナウイルス流行が与えた子供たちへの影響」. 埼玉県教育局保健体育課.WEB.2023.11.12

(4). 国内学会一般演題
4 件

【研究費】

公的研究費 (研究代表者)

〔文部科学省科学研究費〕

1. Aurelie Piedvache 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 23K10077 基盤研究 (C) 研究課題名「Demonstrate the effectiveness of the new Japanese gestational weight gain growth charts in the prevention of low birth weight」 (2023 年度～2025 年度) 1,560 千円：間接経費含む (2023 年度)
2. 加藤承彦 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 21K10933 基盤研究 (C) 研究課題名「不妊治療患者の現状および必要とされる公的支援に関する研究」 (2021 年度～2023 年度) 390 千円：間接経費含む (2023 年度)
3. 小林しのぶ 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 23K10198 基盤研究 (C) 研究課題名「川崎病既往者の自己管理能力育成に向けた教育プログラムの開発」 (2023 年度～2025 年度) 1,040 千円：間接経費含む (2023 年度)
4. 森崎菜穂 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 22H03362 基盤研究 (B) 研究課題名「思春期のこころの発達とリスク行動に関する全国加速コホート調査」 (2023 年度) 3,900 千円：間接経費含む (2023 年度)
5. 石塚一枝 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 23K12759 若手研究 研究課題名「10 代における摂食障害のリスク因子と保護因子に関する全国コホート研究」 (2023 年度～2025 年度) 3,900 千円：間接経費含む (2023 年度)
6. 帯包エリカ 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 23K16345 若手研究 研究課題名「父親の周産期うつ病予防のためのインターネット認知行動療法：ランダム化比較試験」 (2023 年度～2025 年度) 2,600 千円：間接経費含む (2023 年度)
7. 田中久子 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 22K10481 基盤研究 (C) 研究課題名「小児肥満における生活習慣病予防のための検診介入と新たなアプローチの開発」 (2022 年度～2024 年度) 780 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔厚生労働科学研究費〕

1. 森崎菜穂(補助事業者) 女性の健康の包括的支援政策研究事業 23FB1003 研究課題名「女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目的の策定を推進するための研究」研究代表者 甲賀かをり (国立大学法人東京大学) (2023 年度～2025 年度) 7,800 千円：間接経費含む (2023 年度)
2. 大久保祐輔 (補助事業者) 新興・再興感染症予防接種政策推進研究事業 23HA1002 研究課題名「小児領域を含む薬剤耐性感染症対策に係る地域間連携の標準モデルの策定・推進に資する研究」研究代表者 宮入烈 (国立大学法人浜松医科大学) (2023 年度～2025 年度) 1,000 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔こども家庭科学研究費補助金〕

1. 森崎菜穂 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 23DA0101 (森崎班) 研究課題名「妊産婦の栄養・食生活の実態把握と効果的な支援のための研究」 (2023 年度～2025 年度) 17,000 千円：間接経費含む (2023 年度)

2. 帯包エリカ（補助事業者）成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 23DA0501 研究課題名「発達障害や知的障害、精神疾患、外国人等、配慮・支援の必要な妊産婦への支援を推進するための研究」研究代表者 佐藤拓代(公益社団法人母子保健推進会議) (2023 年度～2025 年度) 6,000 千円：間接経費含む (2023 年度)
3. 石塚一枝（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業） 23DA1101（石塚班） 研究課題名「感染症流行下等の社会的な環境変化による子どもの心身への影響の評価方法及び対処法の確立に向けた研究」 (2023 年度～2024 年度) 5,999 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔国立研究開発法人科学技術振興機構（戦略的国際共同研究プログラム）〕

1. 大久保祐輔 国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（さきがけ）セグメント「臨床研究1」 研究課題名「パンデミックに強い子どもの医療・保健・教育連携モデルの構築」 (2022 年度～2025 年度) 10,000 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔JSPS 国際共同研究事業〕

1. 森崎菜穂 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI) 研究課題名「(和文) 新型コロナウイルス流行下における日英の親子の精神的健康とニーズの推移分析から学ぶ」「(英文) Learning from the trajectories of mental health challenges for children, young people and parents across Japan and UK over the course of the COVID-19 pandemic: a mixed method analysis」 (2021 年度～2024 年度) 9,458 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔受託研究費〕

1. 大久保祐輔 戦略的イノベーション創造プログラム（第3期）SIP 2024SIP(B-3)大久保研究課題名「秘密計算技術の社会実装事例の構築秘密計算を活用した分析システム開発」 研究開発責任者：櫻井陽一 (NTT コミュニケーションズ株式会社) (2023 年度～2025 年度) 10,000 千円：間接経費含む (2023 年度) 共同研究機関：国立研究開発法人国立成育医療研究センター、国立大学法人大阪大学、GMO サイバーセキュリティ by イエラエ株式会社

〔国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部横断的研究推進費〕

1. 森崎菜穂 横断的研究推進費 2024 横断的研究推進（コホート） 研究課題名「電子化医療情報を活用した疾患横断的コホート研究情報基盤整備事業」 (2023 年度) 8,250 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔成育医療研究開発費〕

1. 加藤承彦 成育医療研究開発費（2022B-9） 研究課題名「乳幼児期、学童期、思春期の子どもに関する政府統計等の大規模データ活用のための基盤整備と活用の促進」 (2023 年度) 1,320 千円：間接経費含む (2023 年度)
2. 石塚一枝 成育医療研究開発費（2023B-13） 「研究課題名思春期やせの予防プログラム開発のための疫学研究」 (2023 年度) 2,600 千円：間接経費含む (2023 年度)

3. 帯包エリカ 成育医療研究開発費 (2023C-19) 研究課題名「Diagnostic Procedure Combination (DPC) データにおける ICD-10 診断コードを用いた小児虐待研究」(2023 年度) 455 千円：間接経費含む (2023 年度)
4. 大久保祐輔 成育医療研究開発費 (2023B-5) 研究課題名「小児周産期の臨床指標 (QI) の社会実装」(2023 年度) 1,575 千円：間接経費含む (2023 年度)

公的研究費（研究分担者）

〔国立研究開発法人日本医療研究開発機構〕

1. 森崎菜穂 成育疾患克服等総合研究事業 研究課題名「出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究」 研究代表者 栗山進一 (国立大学法人東北大学) (2023 年度) 780 千円：間接経費含む (2023 年度)
2. 森崎菜穂 成育疾患克服等総合研究事業 研究課題名「妊孕能低下予防・妊娠合併症リスクの低減を目指したプレコンセプション女性に対する包括的支援プログラムの開発」 研究代表者 甲賀かをり (国立大学法人東京大学) (2023 年度～2025 年度) 2,600 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔文部科学省科学研究費〕

1. 加藤承彦 科学研究費助成事業（科学研究費補助金） 21H04982 基盤研究（S）（赤林班） 研究課題名「ポストコロナの教育格差研究：世界的課題の解明とオンラインでの調査・実験手法の革新」 研究代表者 赤林英夫 (慶応義塾大学) (2021 年度～2025 年度) 130 千円：間接経費含む (2023 年度)
2. 加藤承彦 科学研究費助成事業（科学研究費補助金） 文科学術変革領域研究 A 22H05103 (可知班) 研究課題名「子どもの健康格差の解明」 研究代表者 可知悠子 (北里大学) (2022 年度～2026 年度) 3,380 千円：間接経費含む (2023 年度)
3. 加藤承彦 科学研究費助成事業（科学研究費補助金） 21H03259 基盤研究（B）（竹原班） 研究課題名「子育て期の父親における、仕事と家事・育児の両立のあり方に関する包括的な研究」 研究代表者 竹原健二 (成育医療研究センター) (2021 年度～2023 年度) 260 千円：間接経費含む (2023 年度)
4. 森崎菜穂 科学研究費助成事業（科学研究費補助金） 20H03921 基盤研究（B）（新城班） 研究課題名「質評価等を小児医療提供体制に還元するモデル基盤の確立に関する研究」 研究代表者 新城 大輔 (国立大学法人東京医科歯科大学) (2020-2023 年度) 130 千円：間接経費含む (2023 年度)
5. 石塚一枝 科学研究費助成事業（科学研究費補助金） 23K24600 基盤研究（B）（辻班） 研究課題名「ヒト便中マイクロプラスチック分析による取り込み評価と生体影響」 研究代表者 辻真弓 (産業医科大学) (2022 年度～2026 年度) 50 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔こども家庭科学研究費補助金〕

1. 森崎菜穂 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 21DA1002 (山縣班) 研究課題名「成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究」 研究代表者 山縣然太郎 (国立大学法人 山梨大学) (2022 年度～2023 年度) 400 千円：間接経費含む (2023 年度)
2. 森崎菜穂 こども家庭行政推進調査事業費補助金 (成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 24DB0101 (横山班) 研究課題名「乳幼児身体発育調査の統計学的解析及び乳幼児の発育・発達、栄養状態の評価に関する研究」 研究代表者 横山徹爾 (国立保健医療科学院) (2021 年度～2023 年度) 1,900 千円：間接経費含む (2023 年度)

〔成育医療研究開発費〕

1. 森崎菜穂 成育医療研究開発費 (2022E-4) 竹原 研究課題名「成育子ども・周産期シンクタンクセンターの基礎強化と推進に向けた研究」 研究代表者 竹原健二 (成育医療研究センター) (2023 年度) 研究代表者一括 (2023 年度)

〔国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部横断的研究推進費〕

1. 森崎菜穂 横断的研究推進費 JH2024-B-01 山口 研究課題名「ナショナルセンター職員における 新型コロナウイルス感染症の実態と要因に関する多施設共同観察研究」 研究代表者 山口晃史 (成育医療研究センター) (2023 年度) 10,000 千円(研究班全体): 間接経費含む (2023 年度)
2. 森崎菜穂 横断的研究推進費 2023-若手-06 森崎 研究課題名「妊娠高血圧症候群既往女性における壮年期高血圧罹患予防のための生活習慣改善に関する研究」 研究代表者 川内はるな (国立研究開発法人国立循環器病研究センター) (2023 年度) 188 千円: 間接経費含む (2023 年度)

私人的研究費 (研究代表者)

1. 石塚一枝 牛乳乳製品健康科学会議一般社団法人 J ミルク 研究課題名「妊娠中の乳製品摂取が次世代の健康に及ぼす効果」 (2023 年度) 1,500 千円: 間接経費含む (2023 年度)
2. 石塚一枝 公益財団法人小児医学研究振興財団 研究課題名「10 代のやせとレジリエンス」 (2023 年度) 550 千円: 間接経費含む (2023 年度)
3. 加藤承彦 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 研究課題名「コロナ禍における保育士の身体および精神的健康に関する大規模な疫学調査」 (2022 年度～2023 年度) 1,200 千円: 間接経費含む (2023 年度)

【その他】

(1). 〔教育活動〕

森崎菜穂

1. 東京大学大学院医学系研究科 非常勤講師
2. 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 (医療政策情報学分野) 非常勤講師

加藤承彦

1. 聖路加国際大学公衆衛生大学院客員准教授
2. 東京都立大学客員准教授

大久保祐輔

1. 横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 非常勤講師

帯包エリカ

1. 東京大学大学院医学系研究科 精神保健学分野 (公共健康科学統合講義、心の健康科学、精神保健学 II、精神保健学実習) 非常勤講師

(2). 〔社会貢献〕

森崎菜穂

1. 国際学術誌 査読 5 本
2. 日本小児科学会 情報管理委員会委員
3. 日本産科婦人科学会 周産期委員会 小委員会委員
4. 日本小児保健協会 若手による小児保健検討委員会委員
5. DOHAD 学会 学術委員会委員
6. 世田谷区教育委員会 生活習慣病予防委員会委員
7. Perinatal and Pediatric Epidemiology 編集委員会, Associate Editor

8. WHO Guideline Development Group “Integrated management of children in all their diversity with obesity”, Expert
9. 東京都教育委員会 東京都教育委員会子どもを笑顔にするプロジェクト プロジェクトアドバイザー
10. 厚生労働省健康局厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会委員
11. Journal of Epidemiology 編集委員会, Associate Editor

加藤承彦

1. 国際学術誌 査読 10 編以上
2. Asian Population Studies editorial board
3. 独立行政法人国立青少年教育振興機構 研究倫理委員

大久保祐輔

1. 日本小児科学会 英文査読委員会委員
2. 国際学術誌 査読 20 編以上

小林しのぶ

1. 飛騨市 思春期健診運営検討委員

帯包エリカ

1. 城東保健所 城東保健所養育困難事例検討会議講義
2. こども家庭庁母子保健課 母子保健指導者養成研修
3. こども家庭庁母子保健課 統括支援員養成研修
4. 東京都福祉局子供・子育て支援部 父親向け子育てデジタルブック（仮称）監修委員会委員

- (3). [受賞]
(該当なし)

- (4). [研究所運営への貢献]

森崎菜穂

1. 共同研究管理委員会

加藤承彦

2. 倫理予備審査委員会社会医学部会
3. 防災対策ワーキンググループ
4. 動物実験委員会委員

大久保祐輔

1. NDB 運用管理小委員会
2. セミナー庶務係

- (5). [倫理委員会承認研究課題]

1. 乳幼児の教育に関わる施設を対象とした COVID-19 パンデミック下における実態把握のためのアンケート調査 (2023-023)
2. ナショナルデータベース (NDB) を用いた小児の感染症診療を中心とした実態調査 (2023-052)
3. ルナルナビビーデータを用いた妊娠中の体重推移に関する研究 (2023-081)
4. 【中央一括審査】ナショナルセンター職員における新型コロナウイルス感染症の実態と要因に関する研究についての統合解析 (2023-089)
5. 人口動態調査の分析研究：出生時体格、乳児死亡率、死産率、中絶率等の経時的変化およびその関連因子の把握 (2023-093)
6. 母子保健における特に支援を必要とするこども・家庭・妊産婦の的確な把握を目指すリスクアセスメントシートの実装研究 (2023-096)
7. Diagnostic Procedure Combination(DPC)データにおける ICD-10 診断コードを用いた小児虐待研究 (2023-097)
8. 政府統計を用いた妊産婦、子どもとその家族の現状に関する分析 (2023-153)

9. 母子保健における特に支援を必要とするこども・家庭・妊産婦の的確な把握を目指すリスクアセスメントシートに関する半構造化インタビュー調査 (2023-174)
10. 小児科医を対象にした川崎病罹患者・保護者に対する川崎病教育に関する実態とニーズを探索する横断調査 (2023-177)
11. 【中央一括審査】メタ解析手法を用いた、日本人妊婦の妊娠前体格・体重増加量別の栄養摂取量中央値の算出 (2023-181)
12. 【中央一括審査】妊娠中の体重増加量の推奨値の変更による母児の周産期予後に関する研究 (2023-249)
13. 【中央一括審査】多胎妊娠女性の妊娠中の至適体重増加の検討 (2023-257)
14. 【中央一括審査】我が国における糖代謝異常妊婦の至適体重増加に関するアンケート調査 (2023-259)
15. 【中央一括審査】妊婦の体重・体組成と周産期予後の関連に関する縦断調査 (2023-306)
16. 【中央一括審査】妊娠中の生活習慣と体重・体組成に関する縦断調査 (2023-309)

(6). [プレスリリース]

1. 乳児期における父親の育児への関わりが多いことが、子どもが16歳時点でのメンタルヘルスの不調を予防する可能性.2023.1.12
<https://www.ncchd.go.jp/press/2023/0112.html>
2. 低い世帯所得が医療の受診控えにつながる可能性 ～コロナ禍においても、平時同様の傾向が見られた～.2023.2.17 <https://www.ncchd.go.jp/press/2023/0217.html>
3. 新型コロナ禍における"保育・教育施設"の実態調査の研究を開始 ～医療と教育の連携のための課題把握を目指す～2023.3.23 <https://www.ncchd.go.jp/press/2023/0323.html>
4. 【コロナ禍における親子の生活と健康の実態調査】 2021年と比べて小中学生の向社会性は改善傾向 しかし、こどもの抑うつ傾向は改善が見られず注意が必要.2023.4.25
<https://www.ncchd.go.jp/press/2023/0425.html>
5. 大久保祐輔. 水痘ワクチンの定期接種化で子どもの水ぼうそうの発生率が大きく減少. 2023.7.19. <https://www.ncchd.go.jp/press/2023/0719.html>
6. 帯包エリカ. 父親の"産前・産後うつ"のリスク要因が明らかに ～「コロナへの強い不安」や「周囲や家族のサポート不足」により、約2倍リスク高まる～. 2023.9.1.
<https://www.ncchd.go.jp/press/2023/0901.html>
7. 加藤承彦. 高度不妊治療を受ける女性が感じるストレス要因が明らかに 「終わりの見えない治療」が最多、治療方針をともに考える支援が必要.2023.10.5
<https://www.ncchd.go.jp/press/2023/1005.html>
8. 大久保祐輔. 子どもと保護者の舌下免疫療法の治療遵守率は3年間で徐々に低下 ～治療遵守率に関連する要因も明らかに～2023.11.17.
<https://www.ncchd.go.jp/press/2023/1117.html>
9. 大久保祐輔. コロナ禍における保育施設の感染対策の実態が明らかに ～マスク着用や集団行動の制限を緩和、約半数が行政職員や医師との連携を希望～2023.12.7
<https://www.ncchd.go.jp/press/2023/1207.html>

(7). [メディア出現]

全国紙 27 件、テレビ 7 件、ラジオ 1 件、業界メディア 7 件、地方紙 142 件、ウェブ 198 件 (一部抜粋)

1. 森崎菜穂. 「医学講座」小中高生のうつ症状.株式会社日経ラジオ社 2023.3.18
2. 石塚一枝. コロナ禍におけるインターネット利用. 2023.6.24. 朝日新聞朝刊東京版.
3. 大久保祐輔 ワクチン定期接種で水痘発生率が46%減 - 成育セなどグループ 薬事日報 2023.07.26
4. 森崎菜穂, 石塚一枝. 子どもの心のケア、長期に コロナ影響へのケア継続を. 日本経済新聞 2023.9.8
5. 帯包エリカ. NHK ニュース LIVE ゆう5時「産前産後の父親の悩み」 2023.10.02
6. 森崎菜穂 <NHK ニュース おはよう日本>低体重で生まれると生活習慣病リスク 2023.11.26

(8). [報告書・啓発パンフレット類]

1. 帯包エリカ 小林しのぶ 三好しのぶ・成育看護部 【研修用動画】乳幼児の身体計測（身長・頭囲の計測） 2023.05～06
2. コロナ×こども本部 【報告資料他】子どもたちから学ぶ「子どもの権利」を守るために 2023.03.20
3. コロナ×こども本部 【報告書】新型コロナウイルス感染症による親子の生活と健康への影響に関する実態調査報告書（2020年-2022年） 2023.04.25
4. コロナ×こども本部 【報告資料他】2024年WEB調査「10代のこどもたちとコロナを振りかえる」 2023.06.22
5. 森崎菜穂、田中久子 【報告書】R4年度世田谷区検診報告書 2023.12.4

【令和6年研究業績】

1. 誌上発表

(1). 英文原著

1. Rahman N, Ishitsuka K, Piedvache A, Horikawa C, Murayama N, Morisaki N. Guardians' food literacy and breakfast skipping among Japanese school children. *Appetite*. 2024;194:107200.
2. Ishitsuka K, Piedvache A, Kobayashi S, Iwama N, Nishimura T, Watanabe M, Metoki H, Iwata H, Miyashita C, Ishikuro M, Obara T, Sakurai K, Rahman MS, Tanaka K, Miyake Y, Horikawa R, Kishi R, Tsuchiya KJ, Mori C, Kuriyama S, Morisaki N. The Population-Attributable Fractions of Small-for-Gestational-Age Births: Results from the Japan Birth Cohort Consortium. *Nutrients*. 2024;16(2).
3. Kamihara Y, Ogawa K, Morisaki N, Arata N, Wada S. Association between gestational weight gain and chronic disease risks in later life. *Sci Rep*. 2024;14(1):659.
4. Ishikuro M, Nishimura T, Iwata H, Metoki H, Obara T, Iwama N, Murakami K, Rahman MS, Tojo M, Kobayashi S, Miyashita C, Tanaka K, Miyake Y, Ishitsuka K, Horikawa R, Morisaki N, Yamamoto M, Sakurai K, Mori C, Shimizu A, Sata F, Tsuchiya KJ, Kishi R, Kuriyama S, the Japan Birth Cohort C. Association between infertility treatment and hypertensive disorders of pregnancy in the Japan Birth Cohort Consortium: a meta-analysis. *J Hum Hypertens*. 2024;38(2):187-90.
5. Suto M, Takehara K, Morisaki N, Moriichi A, Gai R, Mori R. Disease Trends in Children and Adolescents in Japan: A Retrospective Observational Study Using the Nationwide Claims Data for 2012-2016. *Children (Basel)*. 2024;11(1).
6. Nagata C, Suto M, Morisaki N, Kobayashi T, Takehara K. Annual numbers of diagnoses and medical expenses for obstetric diseases in Japan: A report from the National Database of Health Insurance Claims. *J Obstet Gynaecol Res*. 2024.
7. Fujikawa Shingu K, Waguri M, Takahara M, Piedvache A, Katakami N, Shimomura I. Association between infant birth weight and gestational weight gain in Japanese women with diabetes mellitus. *J Diabetes Investig*. 2024.
8. Okubo Y, Uda K. Structural and organizational determinants of the capacity for COVID-19 testing and diagnoses in children: Insights from the 2009 influenza and COVID-19 pandemics. *Respir Investig*. 2024;62(3):426-30.
9. Nagata A, Onishi K, Masumoto T, Nakagawa T, Ishitsuka K, Kurozawa Y. Early childhood neurodevelopmental milestones in children with allergic diseases: the Japan Environment and Children's Study (JECS). *Sci Rep*. 2024;14(1):6460.
10. Okubo Y, Nakabayashi Y, Ito K, Uda K, Miyairi I. Nationwide epidemiology and health resource use among children with COVID-19 in Japan. *J Infect Chemother*. 2024.
11. Obikane E, Yamana H, Ono S, Yasunaga H, Kawakami N. "Association between perinatal mood disorders of parents and child health outcomes". *Arch Womens Ment Health*. 2024.
12. Enami K, Kondo T, Kajiwara K, Kawaguchi R, Kato T. Mothers' parental divorce experience in childhood and their children's mental health: Mediating role of maternal education. *J Affect Disord*. 2024;358:483-6.

13. Okubo Y, Ishitsuka K, Goto A. Impact of COVID-19 pandemic on physical health amongst children: Difference-in-differences analyses of nationwide school health checkup database. *Pediatr Obes.* 2024;19(7):e13126.
14. Kato N, Morisaki N, Moriichi A. Trends in the survival of patients with trisomy 13 from 1995 to 2021: A population study in Japan. *Am J Med Genet A.* 2024;194(9):e63710.
15. Hosoya S, Itoi S, Piedvache A, Osuga Y, Morisaki N, Koga K. Timing of Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Vaccination and Effects on Menstrual Cycle Changes. *Obstet Gynecol.* 2024;144(1):e10-e2.
16. Isayama T MF, Rohsiswatsmo R, Ozawa R, Tomotaki S, Morisaki N, Chee Seok, Neoh SH, Imperila MLS, Velasco BAE, Chang YS, Cho S, Youn Y, Quek BH, Poon WB, Amin Z, Jayaratne K, Kumin LPCS, Lin Y, Chang JH, Lin HY, Lin MC, Nuntnarumit P, Ngercham S, Prempunpom C, Prempraphan P, Sypapannachart S, Kusuda S, AsianNeo. Asian Neonatal Network Collaboration (AsianNeo): a study protocol for international collaborative comparisons of health services and outcomes to improve quality of care for sick newborn infants in Asia – survey, cohort and quality improvement studies. *BMJ Open.* 2024.
17. Hisano M, Morisaki N, Sampei M, Obikane E, Yamaguchi K. Comparison of anti-phospholipid antibody titers before and after SARS-CoV-2 mRNA vaccination in hospital staff. *Vaccine X.* 2024;20:100539.
18. Yuki Tada* KI, Aur lie Piedvache, Hisako Tanaka, Kohei Ogawa, Minatsu Kobayashi, Reiko Horikawa, Takeo Fujiwara, Naho Morisaki. Association between diet quality during pregnancy of mothers and that of 3-year-old offspring: A prospective hospital-based birth cohort study. *Journal of Nutritional Science.* 2024.
19. Watanabe M, Hikihara Y, Aoyama T, Wakabayashi H, Hanawa S, Omi N, Tanaka S, Lubans DR. Associations among motor competence, health-related fitness, and physical activity in children: A comparison of gold standard and field-based measures. *J Sports Sci.* 2024;1-7.
20. Yamaoka Y, Hangai M, Sampei M, Morisaki N. The Associations Between COVID-19-related Stigma of School-age Children and Communicative Support from Parents and Teachers. *Journal of Child and Family Studies.* 2024;33(11):3574-87.
21. Yamaguchi A, Bethell CD, Yamaoka Y, Morisaki N. How listening to children impacts their quality of life: a cross-sectional study of school-age children during the COVID-19 pandemic in Japan. *BMJ Paediatr Open.* 2024;8(1).
22. Okubo Y, Uda K, Yoshikawa Y, Ogimi C, Nakabayashi Y, Ito K. Nationwide Epidemiology and Outpatient Healthcare Resource Use of Children with Respiratory Syncytial Virus from 2005 to 2021. *J Pediatric Infect Dis Soc.* 2024.
23. Okubo Y, Uda K, Miyairi I. Long-term Effectiveness of Financial Incentives for Not Prescribing Unnecessary Antibiotics to Children with Acute Respiratory and Gastrointestinal Infections: A Japan's Nationwide Quasi-Experimental Study. *Clin Infect Dis.* 2024.

(2). 英文総説・著書

[英文総説]

1. 加藤承彦. Paternal involvement in childcare in Japan. *Asian Population Studies*. Volume 20, Issue 2 (2024)121-123
2. 大久保祐輔. Lessons learned from the COVID-19 pandemic and future pandemic preparedness for children in Japan. *Pediatrics International*. Volume 66, Issue 1 (2024) e15732

[英文著書]

1. 三瓶舞紀子、森崎菜穂. Burnout during the COVID-19 pandemic: Modulating role of mindfulness. *Linking Neuroscience and Behavior in COVID-19*. Elsevier. 1st Edition - June 13, 2024 545-554.

(3). 和文論文・総説・著書

[和文論文]

1. 土井玲奈、小林実夏、小川浩平、森崎菜穂、左勝則、藤原武男. 「妊産婦のための食事バランスガイド」を用いた食事アセスメントの妥当性. *日本栄養・食糧学会誌*. 2024 年; 第 77 巻; 第 1 号.

2. 帯包エリカ. 母子保健から児童福祉へ共有するためのリスクアセスメントシートについて. 母子保健情報誌. 2024 年; 第 9 号: 24-30
母子保健が児童福祉と共有するためのリスクアセスメントシートの目的や開発された経緯、使い方に関して紹介をした。
3. 青山友子、扇原淳、苑暁藝、菊川真由、松本麻衣、岡田恵美子、岡田知佳、瀧本秀美. 若年男女のやせ・肥満と次世代の健康への影響：地域レベルでみた日本の人口統計学的分析. 厚生指標. 2024 年 9 月号 (第 71 巻第 11 号) 23-30
4. 下田 茉莉子, 石塚 一枝, 森崎 菜穂. 改訂版子どもと若者のレジリエンス尺度日本語版の開発と信頼性・妥当性の検討. 日本公衆衛生雑誌. 2024 年 71 巻 10 号 p. 599-605
[総説]

1. 石塚一枝. コロナ禍における人間関係づくりの変化. 教職研修. 2024 年 1 月号
2. 石塚一枝, 思春期医療に向き合う～苦手意識からの脱却、問題のあるインターネット使用, ゲーム障害, 小児内科, 2024 年 9 月号
3. 山口有紗, コロナ禍とマスク着用を取り巻く現場 上, 中学保健ニュース, 第 1926 号
4. 山口有紗, コロナ禍とマスク着用を取り巻く現場 下, 中学保健ニュース, 第 1927 号
5. 青山友子, 森崎菜穂, DOHaD の基礎研究・疫学研究：出生体重と生活習慣病, 周産期医学, 2024 年 11 月号 54 巻 11 号 1481-1486

[著書]

1. 西野友子, CQ101: 妊娠中から産褥までに助産師が主に担当する継続ケアは推奨されるか? BQ101: 妊娠期にドメスティック・バイオレンス (DV) のリスクをどう評価するか? BQ102: 妊娠期にどのように DV スクリーニングを行うのか? BQ112: 妊娠中、少量ならアルコールを摂取してもよいのか?, エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期 2024, 日本助産学会, 2024 年 38 巻 Supplement_1 号 p. 27-31, 123-125, 126-128, 159-162
2. 小林しのぶ. 地理歴史, 公民① (公共・倫理) 問題, 2025 共通テスト K-パック, 河合出版, 初版 第 1 刷. 2024.12.1

2. 学会発表

(1). 国際学会講演・シンポジウム・招待講演

1. 大久保祐輔. Importance of medical database (1). Data Empowerment for Infectious Diseases clinical research: Perspectives from Japan and Singapore. Novena, Singapore. 2024.10.9. 口頭

(2). 国際学会一般演題発表

1. Shinobu Kobayashi, Big Data Analyses Can Identify Epidemiologic Features of Kawasaki Disease in Japan: a Study Based on the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups Data of Japan. Pediatric Academic Societies (PAS). Toronto. 2024.5.6. ポスター
2. Shinobu Kobayashi, PATIENT EDUCATION SUPPORT AND NEEDS AMONG PARENTS OF PATIENTS WITH KAWASAKI DISEASE: A REPORT FROM THE SMILE @ KD PROJECT. International Kawasaki Disease Symposium (IKDS). Montreal. 2024.8.26. MODERATED POSTER ポスター
3. Shinobu Kobayashi, GENOME-WIDE ASSOCIATION STUDY OF RISK FACTORS FOR NON-RESPONSE TO PRIMARY IMMUNOGLOBULIN PLUS PREDNISOLONE THERAPY. International Kawasaki Disease Symposium (IKDS). Montreal. 2024.8.26. ポスター
4. Shinobu Kobayashi, IDENTIFICATION OF EPIDEMIOLOGIC FEATURES OF KAWASAKI DISEASE USING BIG DATA ANALYSIS FROM THE NATIONAL DATABASE OF HEALTH INSURANCE CLAIMS AND SPECIFIC HEALTH CHECKUPS IN JAPAN. International Kawasaki Disease Symposium (IKDS). Montreal. 2024.8.27. MODERATED POSTER. ポスター

5. Shimoda Mariko. Psuchological Distress Variability Across the Menstrual Cycle: A Comparative Analysis of Premenstrual Symptom Severity. Women Health Conference 2024. Singapore. 2024.10.26. ポスター
 6. Aurelie Piedvache. Gender difference in trends in adolescent mental health from 2021-2023: findings from the Japan Adolescent and Youth Cohort. Women Health Conference 2024. Singapore. 2024.10.25. ポスター
 7. Naho Morisaki. Caregivers' climacteric symptoms and associations with Adolescent risk behavior and mental health: findings from the Japan Adolescent and Youth cohort. Women Health Conference 2024. Singapore. 2024.10.24. 口頭
- (3). 国内学会講演・シンポジウム・招待講演・教育講演・特別講演
1. 森崎菜穂. 疫学成果の臨床現場への実装～小児科・産科分野との連携. 第 35 回日本疫学会学術総会. 高知県高知市. 2024.2.13
 2. 帯包エリカ. 家族が抱える課題に応じた支援方法～家族を包括的にとらえる母子保健で活用するリスクアセスメント～. 江東区 養育困難事例検討会. 東京都江東区. 2024.3.25
 3. 帯包エリカ. 家族が抱える課題に応じた支援方法～家族を包括的にとらえる母子保健で活用するリスクアセスメント～. 統括支援員基礎研修. オンライン. 2024.4.10
 4. 石塚一枝. 成育分野の社会医学的研究について. 国立大学法人東京医科歯科大学. 2024.07.10
 5. 森崎菜穂. 委員会企画 8 「臨床研究とデータ利活用」 第 60 回日本周産期・新生児医学学術集会事務局 2024.7.14
 6. 石塚一枝. 心身の発達に関する課題を中心に. 一般社団法人日本思春期学会. オンデマンド. 2024.08.19
 7. 加藤承彦. セッション：知っておきたい ART 妊娠の産科合併症 タイトル：「ART 妊娠中の女性のメンタルヘルスと Quality of Life」. 第 42 回日本受精着床学会総会・学術講演会. 2024.08.22
 8. 大久保祐輔. 最新のシステマティックレビューからみた小児の風邪薬のエビデンス. 第 99 回鹿児島県小児科医会. 鹿児島. 2024.10.16
 9. 石塚一枝. コロナ禍における子どもの生活と健康問題の実態と支援のあり方. 日本特別ニーズ教育学会 . 2024.10.19
 10. 森崎菜穂. 「SGA の伸長と健康についてー疫学調査からの知見ー」 ノボノルディスクファーマ株式会社 WEB 開催 2024.11.08
 11. 森崎菜穂. 「本邦の出生コホートの位置づけを知り活用する」 第 51 回日本小児臨床薬理学術集会 2024.11.10
 12. 大久保祐輔. リアルワールドデータを活用した出生コホート研究. 第 51 回日本小児臨床薬理学会学術集会. 東京都. 2024.11.10
 13. 小林しのぶ. SMILE@KD プロジェクト 川崎病既往者に関する研究の動向. 鹿児島県小児循環器連携研修会. 鹿児島. 2024.11.15
 14. 帯包エリカ. 母子保健活動におけるリスクアセスメントシートの活用. 日本子ども虐待防止学会第 30 回かがわ大会. 高松市. 2024.12.1

- (4). 国内学会一般演題
5 件

【研究費】

公的研究費（研究代表者）

〔国立研究開発法人日本医療研究開発機構〕

該当なし

〔JSPS 国際共同研究事業〕

1. 森崎菜穂 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI) 研究課題名「(和文) 新型コロナウイルス流行下における日英の親子の精神的健康とニーズの推移分析から学ぶ」(英文) Learning from the trajectories of mental health challenges for children, young people and parents across Japan and UK over the course of the COVID-19 pandemic: a mixed method analysis」(2021 年度～2024 年度) 2,571 千円：間接経費含む (2024 年度)

〔文部科学省科学研究費〕

1. Aurelie Piedvache 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 23K10077 基盤研究(C) 研究課題名「Demonstrate the effectiveness of the new Japanese gestational weight gain growth charts in the prevention of low birth weight」(2023 年度～2025 年度) 1,560 千円：間接経費含む (2024 年度)
2. 加藤承彦 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 24K00405 基盤研究(B) 研究課題名「世帯の社会経済状況を考慮した幼児教育利用の効果の検証と政策提言」(2024 年度～2027 年度) 3,510 千円：間接経費含む (2024 年度)
3. 小林しのぶ 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 23K10198 基盤研究(C) 研究課題名「川崎病既往者の自己管理能力育成に向けた教育プログラムの開発」(2023 年度～2025 年度) 1,950 千円：間接経費含む (2024 年度)
4. 森崎菜穂 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 23K24620 基盤研究(B) 研究課題名「思春期のこころの発達とリスク行動に関する全国加速コホート調査」(2023 年度～2026 年度) 4,160 千円：間接経費含む (2024 年度)
5. 石塚一枝 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 23K12759 若手研究 研究課題名「10 代における摂食障害のリスク因子と保護因子に関する全国コホート研究」(2023 年度～2025 年度) 390 千円：間接経費含む (2024 年度)
6. 帯包エリカ 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 23K16345 若手研究 研究課題名「父親の周産期うつ病予防のためのインターネット認知行動療法：ランダム化比較試験」(2023 年度～2025 年度) 2,600 千円：間接経費含む (2024 年度)
7. 田中久子 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 22K10481 基盤研究(C) 研究課題名「小児肥満における生活習慣病予防のための検診介入と新たなアプローチの開発」(2022 年度～2024 年度) 780 千円：間接経費含む (2024 年度)

〔厚生労働科学研究費〕

1. 森崎菜穂 (補助事業者) 女性の健康の包括的支援政策研究事業 23FB1003 (甲賀班) 研究課題名「女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目的の策定を推進するための研究」研究代表者 甲賀かをり (国立大学法人千葉大学) (2023 年度～2025 年度) 6,500 千円：間接経費含む (2024 年度)
2. 大久保祐輔 (補助事業者) 新興・再興感染症予防接種政策推進研究事業 23HA1002 (宮入班) 研究課題名「小児領域を含む薬剤耐性感染症対策に係る地域間連携の標準モデルの策定・推進に資する研究」研究代表者 宮入烈 (国立大学法人浜松医科大学) (2023 年度～2025 年度) 1,000 千円：間接経費含む (2024 年度)

〔こども家庭科学研究費補助金〕

1. 森崎菜穂 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 23DA0101 (森崎班) 研究課題名「妊産婦の栄養・食生活の実態把握と効果的な支援のための研究」研究代表者 森崎菜穂 (成育医療研究センター) (2023 年度～2025 年度) 17,000 千円：間接経費含む (2024 年度)
2. 帯包エリカ (補助事業者) 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 23DA0501 研究課題名「発達障害や知的障害、精神疾患、外国人等、配慮・支援の必要な妊産婦への支援を推進するための研究」研究代表者 佐藤拓代 (公益社団法人母子保健推進会議) (2023 年度～2025 年度) 7,000 千円：間接経費含む (2024 年度)
3. 石塚一枝 (成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 23DA1101 (石塚班) 研究課題名「感染症流行下等の社会的な環境変化による子どもの心身への影響の評価方法及

び対処法の確立に向けた研究」(2023年度～2024年度) 6,000 千円：間接経費含む (2024年度)

〔受託研究費〕

1. 大久保祐輔 戦略的イノベーション創造プログラム（第3期）SIP 2024SIP(B-3)大久保 研究課題名「秘密計算技術の社会実装事例の構築秘密計算を活用した分析システム開発」研究開発責任者：櫻井 陽一 (NTT コミュニケーションズ株式会社) (2023年度～2025年度) 20,000 千円：間接経費含む (2024年度) 共同研究機関：国立研究開発法人国立成育医療研究センター、国立大学法人大阪大学、GMO サイバーセキュリティ by イエラエ株式会社

〔国立研究開発法人科学技術振興機構（戦略的国際共同研究プログラム）〕

1. 大久保祐輔 国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（さきがけ）セグメント「臨床研究1」 研究課題名「パンデミックに強い子どもの医療・保健・教育連携モデルの構築」(2022年度～2025年度) 15,000 千円：間接経費含む (2023年度)

〔国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部横断的研究推進費〕

1. 森崎菜穂 横断的研究推進費 2024 横断的研究推進（コホート） 研究課題名「電子化医療情報を活用した疾患横断的コホート研究情報基盤整備事業」(2024年度) 7,000 千円：間接経費含む (2024年度)

〔成育医療研究開発費〕

1. 加藤承彦 成育医療研究開発費（2022B-9）加藤 研究課題名「乳幼児期、学童期、思春期の子どもに関する政府統計等の大規模データ活用のための基盤整備と活用の促進」(2024年度) 1,485 千円：間接経費含む (2024年度)
2. 小林しのぶ 成育医療研究開発費（2024C-15）小林 研究課題名「AYA 世代・成人期の川崎病既往者に対する心理社会的困難やニーズに関する調査研究」(2024年度) 398 千円：間接経費含む (2024年度)
3. 石塚一枝 成育医療研究開発費（2023B-13）石塚 研究課題名「思春期やせの予防プログラム開発のための疫学研究」(2024年度) 1,973 千円：間接経費含む (2024年度)
4. 帯包エリカ 成育医療研究開発費（2024C-11）帯包 研究課題名「妊娠・出産を迎える家族の支援プログラム（ファミリー・クラフティング）の開発」(2024年度) 630 千円：間接経費含む (2024年度)

公的研究費（研究分担者）

〔国立研究開発法人日本医療研究開発機構〕

1. 森崎菜穂 成育疾患克服等総合研究事業 研究課題名「プレコンセプションの女性に着目した疾患予防に関する総合的ケア方法の確立・妊孕能低下予防・妊合併症リスクの低減を目指したプレコンセプション女性に対する包括的支援プログラムの開発」研究代表者 甲賀かをり (国立大学法人東京大学) (2023年度～2025年度) 2,600 千円：間接経費含む (2024年度)
2. 石塚一枝 成育疾患克服等総合研究事業 研究課題名「出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究」研究代表者 栗山進一 (国立大学法人東北大学) (2024年度～2026年度) 1,950 千円：間接経費含む (2024年度)

〔成育医療研究開発費〕

1. 森崎菜穂 成育医療研究開発費（2022E-4）竹原 研究課題名「成育子ども・周産期シンクタンクセンターの基盤強化と推進に向けた研究」研究代表者 竹原健二 (成育医療研究センター) (2024年度) 研究代表者一括 (2024年度)

2. 森崎菜穂 成育医療研究開発費 (2024E-2) 吉井 研究課題名「成育母子コホート研究 第Ⅲ期、第Ⅳ期」研究代表者 吉井啓介 (成育医療研究センター) (2024 年度) 研究代表者一括 (2024 年度)

〔文部科学省科学研究費〕

1. 加藤承彦 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 24K02754 基盤研究 (B) (竹原班) 研究課題名「こどもを産み育てやすい国を目指した親子の Wellbeing の根拠の創出とモデル構築」研究代表者 竹原健二 (成育医療研究センター) (2024 年度～2026 年度) 390 千円：間接経費含む (2024 年度)
2. 加藤承彦 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 21H04982 基盤研究 (S) (赤林班) 研究課題名「ポストコロナの教育格差研究：世界的課題の解明とオンラインでの調査・実験手法の革新」研究代表者 赤林英夫 (慶応義塾大学) (2021 年度～2025 年度) 150 千円：間接経費含む (2024 年度)
3. 加藤承彦 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 22H05103 学術変革領域研究 A (可知班) 研究課題名「子どもの健康格差の解明」研究代表者 可知 悠子 (北里大学) (2022 年度～2026 年度) 2,600 千円：間接経費含む (2024 年度)
4. 森崎菜穂 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 24H00659 基盤研究(A) (福田班) 研究課題名「妊娠期から学童期を紡ぐ保健・医療統合データベース基盤開発とエビデンス創出」研究代表者 福田治久 (国立大学法人 九州大学) (2024 年度～2026 年度) 500 千円：間接経費含む (2024 年度)
5. 青山友子 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 24K05891 基盤研究 (C) (城所班) 研究課題名「低出生体重児における身体活動が有する保護効果の解明」研究代表者 城所哲宏 (日本体育大学) (2024 年度～2026 年度) 50 千円：間接経費含む (2024 年度)
6. 石塚一枝 科学研究費補助金 (学術研究助成基金助成金) 23K24600 基盤研究 (B) (辻班) 研究課題名「ヒト便中マイクロプラスチック分析による取り込み評価と生体影響」研究代表者 辻真弓 (産業医科大学) (2023 年度～2026 年度) 100 千円：間接経費含む (2024 年度)

〔厚生労働省科学研究費〕

1. 森崎菜穂 女性の健康の包括的支援政策研究事業 24FB1001 (平池班) 研究課題名「月経随伴症状に関連した健康課題の公衆衛生学的分析とその解決に向けた包括的研究」研究代表者 平池修 (国立大学法人東京大学) (2024 年度～2025 年度) 300 千円：間接経費含む (2024 年度)

〔こども家庭科学研究費補助金〕

1. 森崎菜穂 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 24DAB0201 (山縣班) 研究課題名「成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究」研究代表者 山縣然太郎 (成育医療研究センター) (2024 年度～2026 年度) 研究代表者一括 (2024 年度)
2. 森崎菜穂 こども家庭行政推進調査事業費補助金 (成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 24DB0101 (横山班) 研究課題名「乳幼児身体発育調査の統計学的解析及び乳幼児の発育・発達、栄養状態の評価に関する研究」研究代表者 横山徹爾 (国立保健医療科学院) (2024 年度～2025 年度) 800 千円：間接経費含む (2024 年度)

〔国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部横断的研究推進費〕

1. 森崎菜穂 JH2024-B-01 山口 研究課題名「ナショナルセンター職員における 新型コロナウイルス感染症の実態と要因に関する多施設共同観察研究」研究代表者 山口晃史 (成育医療研究センター) (2024 年度) 6,000 千円 (研究班全体)：間接経費含む (2024 年度)
2. 森崎菜穂 2023-若手-06 森崎 研究課題名「妊娠高血圧症候群既往女性における壮年期高血圧罹患予防のための生活習慣改善に関する研究」研究代表者 川内 はるな (国立研究開発法人国立循環器病研究センター) (2024 年度) 100 千円：間接経費含む (2024 年度)

私的研究費（研究代表者）

1. 帯包エリカ 医療科学研究所 研究課題名「機械学習を用いた妊産婦・乳幼児家庭の養育不調リスクのクラスター分類と早期予測モデル」 研究代表者 帯包エリカ（成育医療研究センター）（2024年度） 700千円：間接経費含む（2024年度）
2. 大久保祐輔 独立行政法人日本スポーツ振興センター 学校安全に関する研究助成事業 研究課題名「学校安全の質を向上するための医療・教育連携モデルの構築」 研究代表者 大久保祐輔（成育医療研究センター）（2024年度～2026年度） 1,200千円：間接経費含む（2024年度）

【その他】

(1). [教育活動]

森崎菜穂

1. 東京大学大学院医学共通講義生殖発達加齢医学入門（成育政策学）連携准教授
2. 国立研究開発法人国立循環器病研究センター健診部 客員研究員

加藤承彦

1. 聖路加国際大学公衆衛生大学院客員准教授
2. 東京都立大学客員准教授

大久保祐輔

1. 横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 非常勤講師

帯包エリカ

1. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 国際健康推進医学 非常勤講師
2. 東京大学医学系研究科 精神保健学分野 非常勤講師
3. 東京大学健康総合学科 非常勤講師

青山友子

1. 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 客員研究員

(2). [社会貢献]

森崎菜穂

1. 国際学術誌 査読 5 本
2. 日本産科婦人科学会 周産期委員会データ利活用小委員会委員
3. 日本疫学会 国際誌学術委員会委員
4. 日本疫学会 学会等連携推進委員会 委員
5. 日本小児保健協会 発育委員会委員
6. DOHAD 学会 学術委員会委員
7. 世田谷区教育委員会 生活習慣病予防委員会
8. 東京都教育委員会 東京都教育委員会子どもを笑顔にするプロジェクト プロジェクトアドバイザー
9. 厚生労働省健康局厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会委員
10. Perinatal and Pediatric Epidemiology 編集委員会. Associate Editor
11. Journal of Epidemiology 編集委員会. Associate Editor
12. Journal of Medical Association 編集委員会. Associate Editor
13. WHO Guideline Development Group “Integrated management of children in all their diversity with obesity”. Expert

加藤承彦

1. 独立行政法人国立青少年教育振興機構 研究倫理委員

大久保祐輔

1. 日本小児科学会 英文査読委員会委員
2. 国際学術誌 査読 20 編以上

小林しのぶ

1. 飛騨市 思春期健診運営検討委員

帯包エリカ

1. こども家庭庁母子保健課 母子保健指導者養成研修
2. 東京都福祉局子供・子育て支援部 父親向け子育てデジタルブック（仮称）監修委員会委員
3. 日本小児科学会 情報管理委員会委員

(3). [受賞]

- 森崎菜穂 Women Health Conference 2024 Rising Stars Award
- Aurelie Piedvache Women Health Conference 2024 ポスター賞（銀賞）
- 下田茉莉子 Women Health Conference 2024 ポスター賞（銀賞）

(4). [研究所運営への貢献]

森崎菜穂

1. 共同研究管理委員会
2. NDB 運用管理小委員会

加藤承彦

1. 倫理予備審査委員会社会医学部会
2. 防災対策ワーキンググループ
3. 動物実験委員会委員

大久保祐輔

1. NDB 運用管理小委員会
2. セミナー庶務係
3. 倫理審査委員会社会医学部会
4. 成育ホームページ検討ワーキンググループ

(5). [倫理委員会承認研究課題]

1. 学校を対象とした COVID-19 パンデミック下における実態把握のためのアンケート調査（2024-014）
2. 川崎病既往者に対する心理社会的困難やニーズに関するインタビュー調査（2024-066）
3. 【中央一括審査】住民の健康改善に資するエビデンス創出を目指した多地域コホート研究：LIFE Study（2024-069）
4. 教育施設職員のインフルエンザ予防接種状況と意向に関するアンケート調査（2024-071）
5. 【中央一括審査】摂津市の妊婦を対象とした栄養・食生活等に関する縦断調査（通称名：Pregnancy And Nutrition Cohort At KEnto: PANCAKE Study）（2024-082）
6. 「ルナルナ ベビー」を用いた妊娠中の体重増加と生活習慣等に関する研究（2024-115）
7. 父親の周産期うつ病予防のためのインターネット認知行動療法：ランダム化比較試験（2024-116）
8. 【中央一括審査】「ルナルナ」生理日管理アプリを用いた初潮タイミングの予測に関する研究（2024-117）
9. 施設内における接触測定と手法開発（2024-142）
10. 【中央一括審査】出生時からの非感染性疾患リスクの緩衝につながる学童期・思春期の身体・環境・心理社会的要因の解明：母子手帳情報から現在リスクを予測する（2024-182）
11. 【中央一括審査】周産期データベースと体外受精・胚移植に関する登録データベースの連結による凍結胚移植におけるホルモン補充周期と自然周期の周産期転帰の比較研究（2024-221）
12. 小学校を対象とした子どもの不安障害に関する実態把握のためのアンケート調査（2024-227）
13. 妊娠・出産を迎える家族の支援プログラム（ファミリー・クラフティング）に関する調査（2024-230）

(6). [プレスリリース・広報活動・その他]

1. 石塚一枝、森崎菜穂. 養育者の健康な食に関するリテラシーが、子どもの食に影響 養育者の知識や態度が低いほど、子どもは朝食を抜きやすい傾向に. 2024.3.14
<https://www.ncchd.go.jp/press/2024.0314.html>
2. 大久保祐輔、石塚一枝. 新型コロナウイルスのパンデミックが小児の身体的健康に影響～学校健診データの分析から、肥満・やせ・視力低下は増加傾向～. 2024.5.28
<https://www.ncchd.go.jp/press/2024/0528.html>
3. 榎並公平、加藤承彦. 逆境体験が世代を超えて影響を及ぼすメカニズムに関する研究 次世代の良好なメンタルヘルスのためには、教育への支援が重要か？. 2024.6.27
<https://www.ncchd.go.jp/press/2024/0627.html>
4. 森崎菜穂. 【コロナ禍における親子の生活と健康の実態調査】 5人に1人はインターネット依存が強く疑われる状態 保護者評価のこどものメンタルヘルスは改善傾向も、抑うつは改善見られず. 2024.7.29
<https://www.ncchd.go.jp/press/2024/0729.html>
5. 山口有紗、森崎菜穂. 大人が子どもの声を積極的に聴き、取り入れようとする事で子どもの生活の質（QOL）が向上することが明らかに ～コロナ禍で「声を聴かれた」と感じた子どもは、QOLが高い割合が約5倍に～. 2024.10.31
<https://www.ncchd.go.jp/press/2024/1031.html>
6. 森崎菜穂、石塚一枝. 国立成育医療研究センターと『ルナルナ』が、“初潮はいつ頃？”を予測するアルゴリズムの共同研究を開始！. 2024.12.1
<https://www.ncchd.go.jp/press/2024/1127.html>
7. 大久保祐輔. 小児抗菌薬適正使用支援(ASP)加算の導入により 乳幼児への抗菌薬処方が約20%減と長期的減少に大きく貢献 ～薬剤耐性菌増加につながる過剰処方を安全かつ効率的に防止～. 2024.12.17
<https://www.ncchd.go.jp/press/2024/1217.html>

(7). [メディア出現]

全国紙5件、業界メディア3件、地方紙56件、ウェブ122件（一部抜粋）

1. 石塚一枝. 小学生サプリメントの実態調査. 5.17.2024 朝日新聞
2. 大久保祐輔. コロナ禍で子どもの肥満割合が増加 学校健診情報を分析 教育新聞電子版 2024.05.28
3. 大久保祐輔. 新型コロナ流行下で・未治療のむし歯が減 日本歯科新聞 2024.06.11
4. 森崎菜穂 吉井啓介 2500グラム未満 10人に1人 増える低出生体重児 東京読売新聞 2024.12.06

(8). [報告書・啓発パンフレット類]

1. コロナ×こども本部 【報告資料他】 こどもたちの声「マスクをつける？外す？」 2024.06.14
2. コロナ×こども本部 【報告書】 新型コロナウイルス感染症流行による親子の生活と健康への影響に関する実態調査報告書（2020年-2023年） 2024.07.29
3. コロナ×こども本部 【掲載】『令和6年版こども白書』注目事例⑫ 2024.08.19
4. コロナ×こども本部 【報告資料他】 こどもたちのねがい～10代のこどもたちとコロナを振り返る～ 2024.10.29
5. 森崎菜穂、田中久子 【報告書】 R5年度世田谷区検診報告書 2024.12.3
6. 帯包エリカ、小林しのぶ、Aurelie Piedvache、西野友子、森崎菜穂、竹原健二 【報告書】 母子保健における特に支援を必要とするこども・家庭・妊産婦の的確な把握を目指すリスクアセスメントシートの実装研究 2024.7.31